

平成 29 年度
市民活動団体活動状況調査事業
報告書

平成 30 年 1 月

NPO 法人えべつ協働ねっとわーく

理事長 奈良 幸則

〒069-0813 江別市野幌町10番地 1 イオンタウン江別2階

江別市民活動センター・あい

<目 次>

1. 調査の概要.....	01
2. 調査結果からの所見	02
3. 調査結果の概要.....	03
4. 調査結果の内容	
(1)団体の概要・会員について.....	05
(2)団体運営	11
(3)活動内容について	15
(4)行政等、他団体との協働・連携について	24
(5)市民活動の促進について	30
(6)市民活動団体版出前講座について	31
(7)協働のまちづくり活動支援事業について	33
(8)江別市民活動センターについて.....	35
(9)認定 NPO について	38
(10)その他.....	39
資料 1 平成 13 年～25 年の調査結果との比較.....	40
資料 2 調査票.....	44

1. アンケート調査の概要

(1) 調査の目的

本調査により市民活動団体の活動状況や課題等の把握を行い、支援方法や協働のあり方の検討に役立てるための基礎資料を得ることを目的とする。

(2) 対象団体

前回調査の対象となった団体リストを元に、追加となった団体や解散した団体の情報を加え、選定した。

(3) 調査対象の範囲

対象団体として、江別市民を対象に活動する団体、市内に事務所（活動拠点）を置く団体、市内を活動場所としている団体で「継続的、自発的に社会的活動を行なう営利を目的としない団体」を調査対象とした。なお、次の①から③の団体は対象外としたが、本来の活動以外にボランティア活動など社会的活動を行なっている場合は対象とした。

- ①特定非営利活動法人（NPO法人・一般社団法人）以外の公益法人等（財団法人、商工会議所、医療法人、社会福祉法人、宗教法人、労働組合等）
- ②有限会社、株式会社、協同組合等の法人格を持つ団体
- ③その他の団体（消防団、民生委員協議会、自治会、PTA、同窓会等）

(4) 調査時期

2017年(平成29年)9月～10月

(5) 調査方法

対象団体に対して郵送で調査票を送付し、指定した返信用封筒で郵送にて回収した。

(6) 回収結果

- ・調査対象団体（グループ）：171
- ・回答団体（グループ）：95（回収率：55.6%）
- ・無効：9（団体の解散予定等の理由による回答拒否または白紙回答）

(7) 集計にあたって

回答率（%）は、その設問の回答数を基数として算出した。設問毎の無回答は有効回答数に含めなかった。

2. 調査結果からの所見

この調査は、平成13年より4年おきに実施され、今調査で5回目となる。調査開始から16年を経て、市民活動を取り巻く状況にも変化があり、それによって市民活動の現場がどのように影響を受けているのか、抱えている課題にどのような変化があるのかを今調査により把握し、活動の促進に向けた支援方法検討の一助となることが期待される。

会員の数、年齢、性別といった団体の基礎となる会員構成については、資料1の過去との比較にまとめたが、ここで簡略にまとめると、40代の市民活動への参加が増えているものの、会員数が減っている団体が増えており、さらに、年齢は高年齢化の傾向が見られ、性別は男性が減少する傾向にある。会員数の減少により、事務的負担が主となる会員に集中してしまい、活動のさらなる停滞に繋がることが考えられる。課題となる新規会員の獲得、活動に深く関わる会員を増やす取り組みを進めることが求められる。

団体運営では、入会金・会費収入を主とする年間活動予算が50万円未満の団体が増えている。500万円以上の活動資金がある団体は微減に留まっており、活動規模の二極化が進んでいる事がわかる。常勤スタッフを配置する団体も減少しており、規模の大きい団体以外は、十分な人件費を当てられず、無給で運営をしている団体が多い事が分かる。

非営利組織の運営においては、報酬を目的としない労働力は重要であるが、運営力を維持・発展していくためには、卓越した組織力とそれを運営するノウハウが必要となる。

情報発信はそれなりに行いながらも、会員や協力者の獲得に悩んでいる団体が多いことから、資金が無くても十分に運営できるのではなく、個々人の努力、あるいは犠牲のもとに運営を続けている団体も少なくないものと思われる。継続した活動のための資金の獲得に悩んでいる団体も多いことから、組織運営に関するノウハウの伝授や相談も必要であると考えられる。

情報発信では、複数回における情報発信は行いながらも、効果的に伝えたい層に伝わらないという悩みがあり、活動をPRする手段がないという悩みもある。また、ブログやSNSを利用している団体は3割以下と、デジタルを活用していない団体も多い。パソコンやスマホを活用しきれない、抵抗感があるというのが主な理由になるかと思うが、得意とする会員の獲得に加え、利用を啓発していく努力の必要性も感じる。

協働・連携では、多くの団体が実績を持ち、今後も取り組んでいきたいと考えている。また、市民活動団体同士の連携も増えてきている。地域課題には、単独団体の枠を超えた協働・連携が無ければ解決できないことも多いため、そうした動きに積極的な団体が多いため、今後は連携出来る団体のマッチングがさらに重要になると考えられる。

市民活動の拠点として整備され、11年が経過しようとしている江別市民活動センター・あいについては、認知度・利用者数の割合は上昇しており、同施設が市民活動に必要な存在であることが窺える。しかし、その利用目的のうち最も多いのが印刷機等の利用、会議室の利用であり、NPOや市民活動の相談、交流会への参加などが多くない現状であることから、中間支援団体としての機能を高める必要が求められる。

3. 調査結果の概要

①活動団体数：横ばい

活動団体は2015年4月以降、4件設立されている。なお、前回の調査（2013年9月）以降設立された団体は8団体である。また、活動状況についての質問では、回答者の86%は「活発」「やや活発」と回答し、前回調査と同等ながら「停滞」と回答した団体が14%で前回の10%からやや増加している。解散による回答なしが8団体ある。

②活動分野：複数分野での活動が主

活動分野の傾向は前回調査とほぼ同様で、社会教育・生涯学習が最も多い。

まちづくり、文化の活動分野が前回調査よりも増えている。

一つの団体で複数分野の活動を展開している団体は、前回調査より増えている。

③会員構成：高齢化が進行

会員数は「1～10人」「51～100人」「1001人以上」の団体が増加しており、「11～50人」の団体が減少しているが、「11人～50人」の層が一番多いことに変化はなかった。

男女比については、男性の参加率が減少しており、「ほとんど女性」が約13%上昇しており、「男女半々」が約9%減少している。会員数の推移に関しては「減っている」が約33%と最も多くなっている。会員の年齢層は、活動の主は40代が増えている一方、60代以上も約10%以上増えており、前回調査からの高齢化が見られる。職業では「会社員」が前回調査より多くなっている。

④団体運営：運営安定の二極化が進行している

活動資金は、100万円以上の団体が10%以上減少し、10万円以上50万円未満の団体の割合が約13%上昇と前回調査よりもさらに低予算化が進んでいる。一方で、500万円以上の団体の割合では大きな減少は見られず、資金を確保できる団体と無い中で活動を行う団体の二極化が前回調査よりもさらに進んでいることが分かる。

その資金源としては、会費収入が35%と最も多く、前回調査と同様の傾向である中で自主財源の確保に力を入れている団体がわずかに増えている。

常勤スタッフの配置は19%と前回調査より8%減っている中で、人件費は上昇していることから、安定した資金を確保出来る団体とそうでない団体の二極化が進んでいるものと思われる。

⑤活動の悩み：多様な人材の悩みを抱えている

団体の一番の悩みとして、人に関する悩みが挙げられ、前回調査同様75%があると

回答している。会員数そのものの悩みに加え、前回よりも、後継者不足、高齢化・男女の隔たり、特定の会員の事務負担が増加している。情報に関する悩み、お金に関する悩みについても前回調査同様に半数近くが悩みを持っており、活動に参加したい人の情報、PRするための情報、活動資金の不足がなお課題として挙げられる。

⑥活動情報の発信：手段は多様化しつつも、情報のデジタル化に追い付いていない

団体の情報については、会報、インターネット、新聞、イベント等、各団体で発信を行っており、それぞれの頻度も複数回行っているとの回答が最も多かった。

インターネット（ホームページ・ブログ・SNS）の活用は6%上昇しているが、28%のみの利用になっており、今回初めて調査したSNSの活用も10%と、今後情報発信のデジタル化をさらに進める必要がある。

コラボのたねの認知度は上昇しているが、登録したくない、わからないとの回答は前回同様で、登録の利点を感じない、既に団体のホームページ等を持っているとの回答が半数以上を占めた。

⑦協働・連携：多くの団体で組織的な協働・連携が行われ、今後もそうした取組を希望

協働・連携の実績は83%の団体で有し、日頃から組織的に協働・連携を行っている団体は6%減少している。

協働・連携先としては、行政に並んで市民活動団体が多く、市民活動団体の連携は前回調査よりも4%増えており、市民活動団体同士の横のつながりが広がっていることが伺える。今後、行政または他の団体と協働・連携して取り組みたい活動があるか尋ねたところ、市や市内大学など前回調査とほぼ同様の結果となった。

⑧今後の活動促進：資金・人員・時間の問題が活動促進の障害となっている

行政に求める事は活動資金の助成や広報・普及活動、備品や機材の提供が約40%と前回調査とほぼ同様の結果となった。新たに、市民活動団体版出前講座について尋ねたところ、認知度は76%と高いが、「登録したくない」と「わからない」を合わせると70%以上を占める。理由としては人員がいない、時間がないなどが多くを占めている。協働のまちづくり活動支援事業を受けてみたいと希望する団体は前回調査とほぼ変わらず、金額を条件にする団体が増えている。

⑨活動の場：市民活動センターのニーズを高める

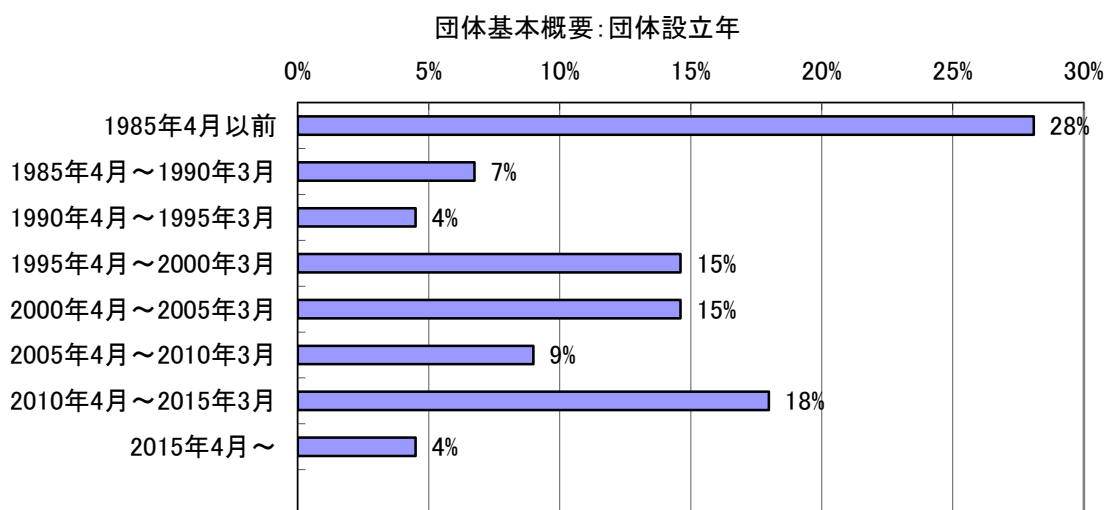
市民活動センターを利用したことがある団体が前回調査より5%、今後利用してみたい団体が9%の上昇となっており、利用頻度も上昇している。主に、印刷機の利用と会議室の利用であるが、設備や時間等のニーズに応えられていない部分もある。

4. 調査結果の内容

(1) 団体の概要、会員について

① 団体の設立年月と設立数

項目	回答数	率
1985年4月以前	25	28%
1985年4月～1990年3月	6	7%
1990年4月～1995年3月	4	4%
1995年4月～2000年3月	13	15%
2000年4月～2005年3月	13	15%
2005年4月～2010年3月	8	9%
2010年4月～2015年3月	16	18%
2015年4月～	4	4%
合計	89	100%



1985年4月以前から活動を行っている団体が28%ある一方で、2005年4月以降に設立された団体は31%となっている。

② 会則の有無

項目	回答数	率
有り	79	85%
無し	14	15%
合計	93	100%

会則のある団体の割合が、前回(88%)より微減しているものの、多くの団体が組織的な

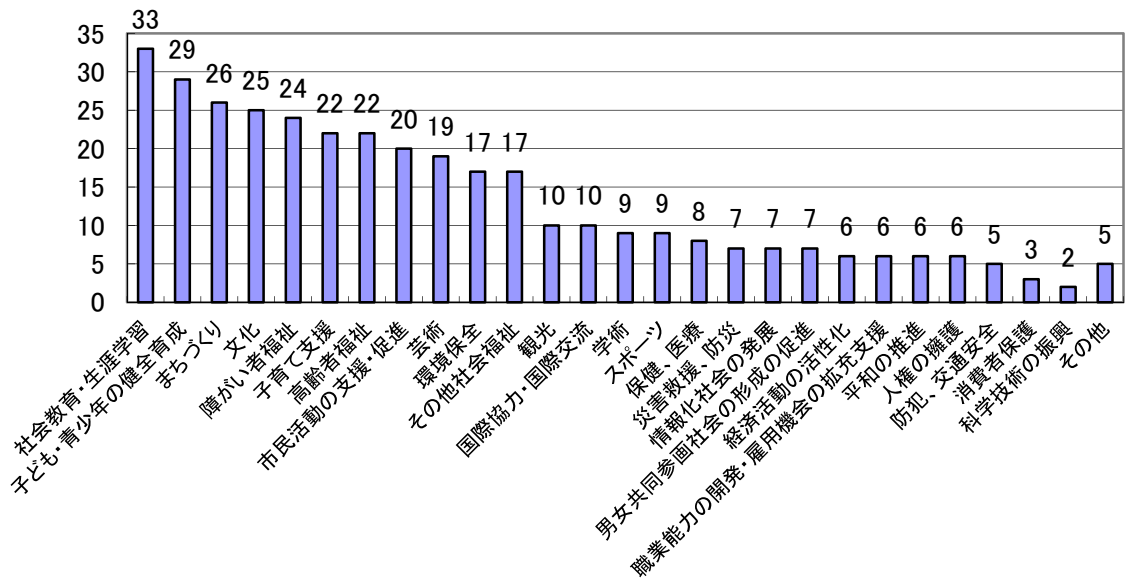
活動を行っている。

③団体の活動分野について

活動区分	全て(複数回答可)		最も力を入れている	
	回答数	率	回答数	率
社会教育・生涯学習	33	9.1%	6	7.5%
子ども・青少年の健全育成	29	8.1%	5	6.3%
まちづくり	26	7.2%	8	10.0%
文化	25	6.9%	4	5.0%
障がい者福祉	24	6.7%	10	12.5%
子育て支援	22	6.1%	2	2.5%
高齢者福祉	22	6.1%	11	13.8%
市民活動の支援・促進	20	5.6%	2	2.5%
芸術	19	5.3%	5	6.3%
環境保全	17	4.7%	11	13.8%
その他社会福祉	17	4.7%	0	0.0%
観光	10	2.8%	1	1.2%
国際協力・国際交流	10	2.8%	2	2.5%
学術	9	2.5%	1	1.2%
スポーツ	9	2.5%	4	5.0%
保健、医療	8	2.2%	2	2.5%
災害救援、防災	7	1.9%	0	0.0%
情報化社会の発展	7	1.9%	0	0.0%
男女共同参画社会の形成の促進	7	1.9%	1	1.2%
経済活動の活性化	6	1.7%	0	0.0%
職業能力の開発・雇用機会の拡充支援	6	1.7%	2	2.5%
平和の推進	6	1.7%	1	1.2%
人権の擁護	6	1.7%	0	0.0%
防犯、交通安全	5	1.4%	0	0.0%
消費者保護	3	0.8%	1	1.2%
科学技術の振興	2	0.6%	0	0.0%
その他	5	1.4%	1	1.3%
合 計	360	100.0%	80	100.0%

回答数

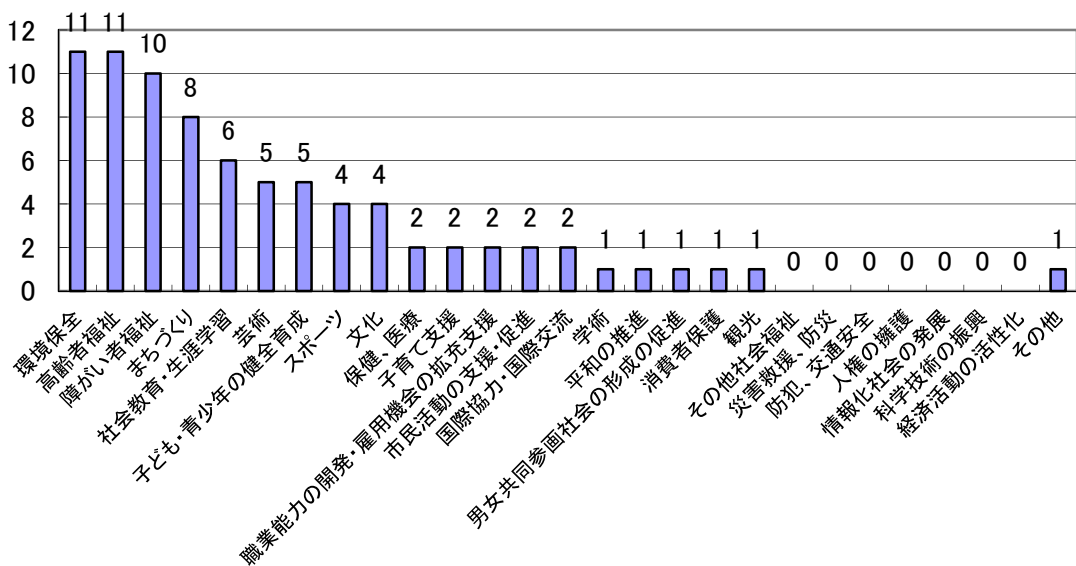
団体基本概要：活動分野について



「社会教育・生涯学習」の活動分野が最も多く、次いで「子ども・青少年の健全育成」「まちづくり」となっている。

回答数

団体基本概要：最も力の入れている分野



最も力を入れている活動は、「環境保全」、「高齢者福祉」が最も多く、「障がい者福祉」が次いで多くなっている。

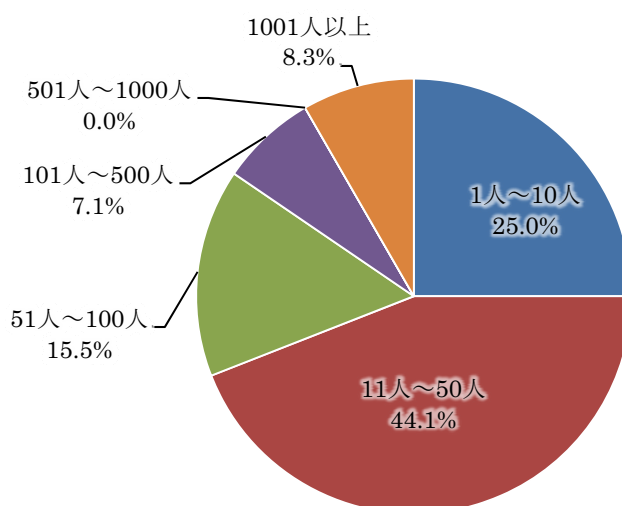
④活動対象地域

項目	回答数	率
江別市内	32	43%
江別市内及び近隣市町村	28	38%
北海道内全域	6	8%
国内全域	4	5%
その他	4	5%
合計	74	100%

活動対象地域は、江別市内が最も多く、近隣市町村、全道が続く傾向は前回調査と同様である。

⑤会員数

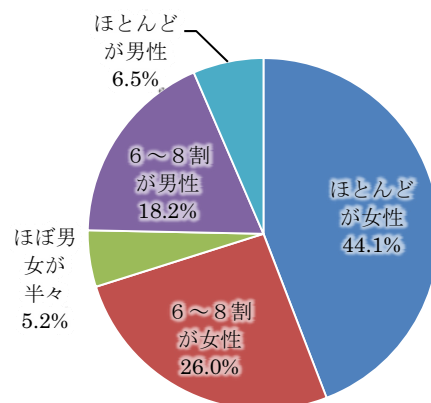
会員数	回答数	率
1人～10人	21	25.0%
11人～50人	37	44.1%
51人～100人	13	15.5%
101人～500人	6	7.1%
501人～1000人	0	0.0%
1001人以上	7	8.3%
合計	84	100.0%



会員数が、1～10人、51～100人の団体で増加が見られ、それぞれ約6%の増加となっている。11～50人、101～500人の団体が減少しており、特に11～50人の団体は約9%減少している。

⑥会員の男女比

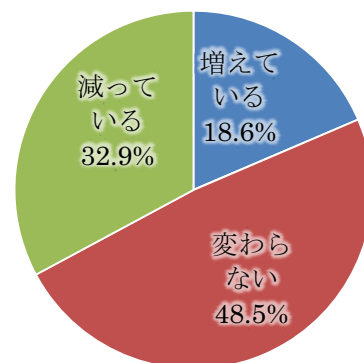
項目	回答数	率
ほとんどが女性	34	44.1%
6～8割が女性	20	26.0%
ほぼ男女が半々	4	5.2%
6～8割が男性	14	18.2%
ほとんどが男性	5	6.5%
合計	77	100.0%



会員の男女比について、「ほぼ男女が半々」が約9%の減、「ほとんどが女性」が13%ほど増加となっている。

⑦会員数の推移

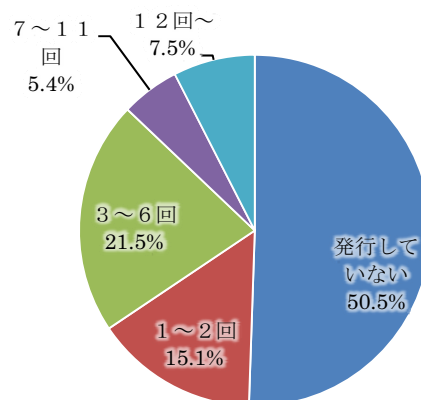
項目	回答数	率
増えている	13	18.6%
変わらない	34	48.5%
減っている	23	32.9%
合計	70	100.0%



会員数が「変わらない」団体が多く、「減っている」団体が「増えている」団体よりも14%ほど多い。

⑧会報の有無

項目	回答数	率
発行していない	47	50.5%
1～2回	14	15.1%
3～6回	20	21.5%
7～11回	5	5.4%
12回～	7	7.5%
合計	93	100.0%



会報を発行していない団体が約半数を占めている。

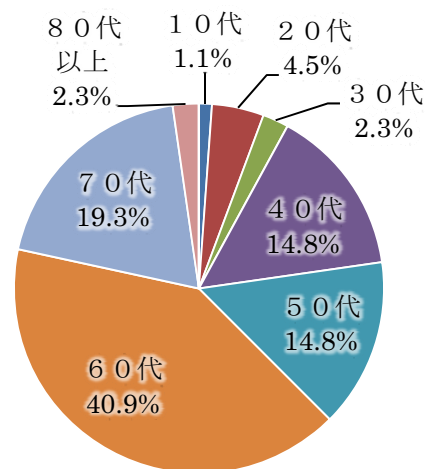
⑨会員の年齢幅

項目	何歳から		何歳まで	
	回答数	率	回答数	率
0-10才	6	7%	0	0%
11-20才	17	20%	0	0%
21-59才	50	59%	8	9%
60才-80才	12	14%	51	60%
81才以上	0	0%	26	31%
合計	85	100%	85	100%

前回同様、会員の年齢幅の傾向は21才~80才までであるが、81才以上までいる団体も増加している。

⑩会員の年齢（最も多い年代）

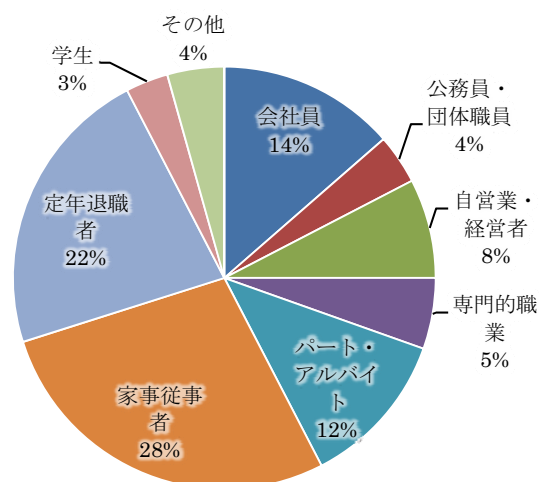
項目	回答数	率
10代	1	1.1%
20代	4	4.5%
30代	2	2.3%
40代	13	14.8%
50代	13	14.8%
60代	36	40.9%
70代	17	19.3%
80代以上	2	2.3%
合計	88	100.0%



会員の年齢（最も多い年代）は、前回調査と比べ、10代、30代は約3%減、50代は約13%減、20代は横ばい、それ以外は増加傾向で、40代は約8%、60代は約8%、70代以上が約4%の増加となっている。

①会員の職業

項目	回答数	率
会社員	25	14%
公務員・団体職員	7	4%
自営業・経営者	14	8%
専門的職業	10	5%
パート・アルバイト	22	12%
家事従事者	51	28%
定年退職者	41	22%
学生	6	3%
その他	8	4%
合計	184	100%

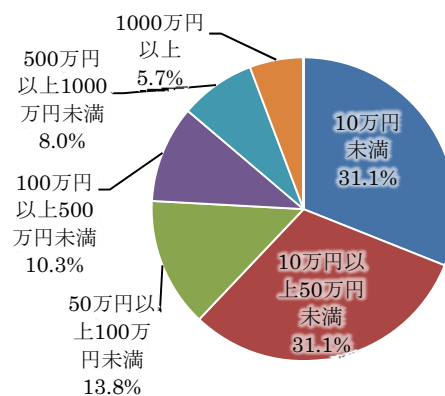


会員の職業は、「家事従事者」が 28%と最も多く、次いで「定年退職者」22%、「会社員」14%と続いている。

(2) 団体運営

①年間活動資金

項目	回答数	率
10万円未満	27	31.1%
10万円以上 50万円未満	27	31.1%
50万円以上 100万円未満	12	13.8%
100万円以上 500万円未満	9	10.3%
500万円以上 1000万円未満	7	8.0%
1000万円以上	5	5.7%
合計	87	100.0%

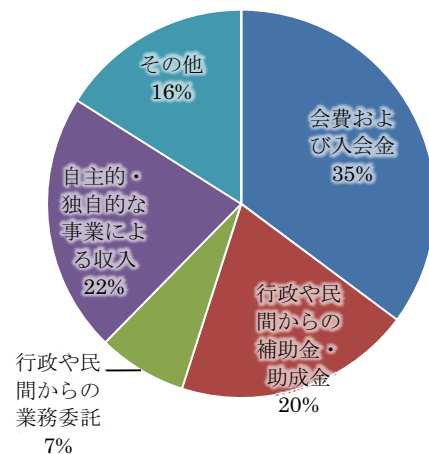


団体の年間活動資金は、前回調査と比べ、「10～50万円未満」が約 13%増加、「100～500万円未満」は約 8%減少、「500万円以上 1000万円未満」と「1000万円以上」を合わせると約 4%減少となった。

②財源の割合

a. 団体の財源(複数回答可)

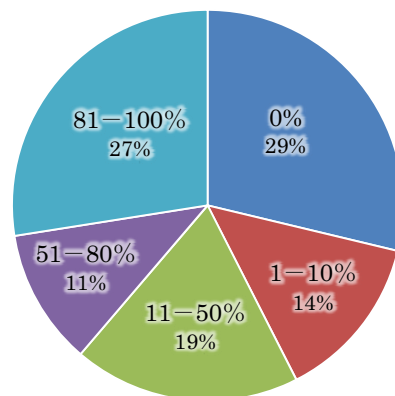
項目：総合	回答数	率
会費および入会金	57	35%
行政や民間からの補助金・助成金	32	20%
行政や民間からの業務委託	12	7%
自主的・独自の事業による収入	35	22%
その他	26	16%
合計	162	100%



団体の財源は、「会費および入会金」の割合が35%と最も多い。一方で、「行政や民間からの業務委託」は7%と最も少ない結果となった。

b. 内訳：会費および入会金

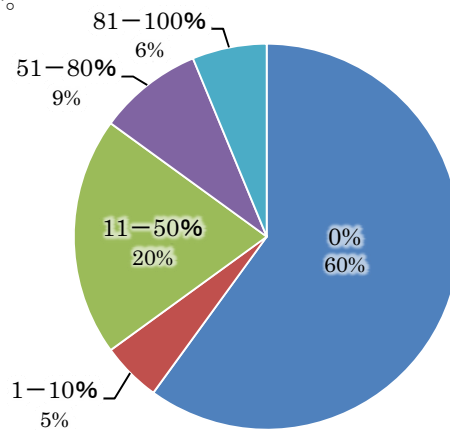
項目	回答数	率
0%	23	29%
1-10%	11	14%
11-50%	15	19%
51-80%	9	11%
81-100%	22	27%
合計	80	100%



会費および入会金が、「0%」と回答した団体が29%と最も多くなっている一方で、「81-100%」と回答した団体は27%と2番目に多い。

c. 内訳：行政や民間からの補助金・助成金

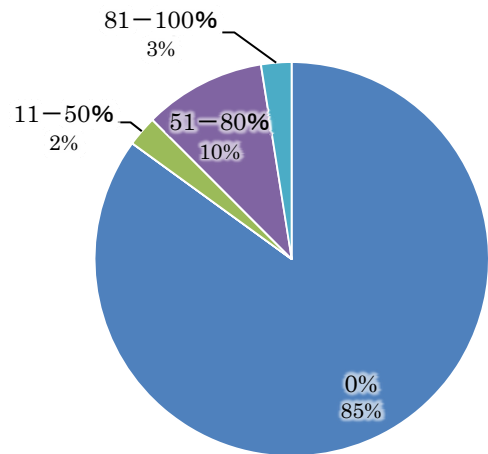
項目	回答数	率
0%	48	60%
1-10%	4	5%
11-50%	16	20%
51-80%	7	9%
81-100%	5	6%
合計	80	100%



行政や民間からの補助金・助成金が、「0%」と回答した団体が60%と最も多く、次いで「11%~50%」と回答した団体が20%となっている。

d.内訳：行政や民間からの業務委託

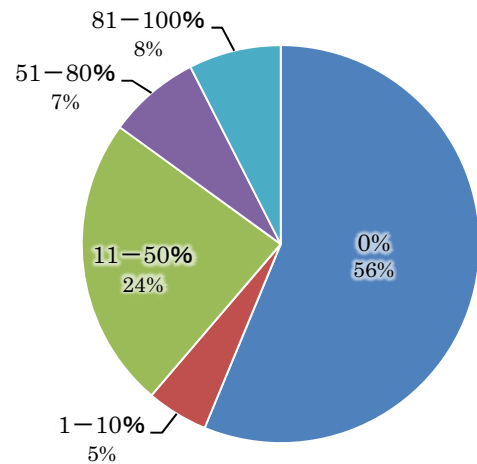
項目	回答数	率
0%	68	85%
1-10%	0	0%
11-50%	2	2%
51-80%	8	10%
81-100%	2	3%
合計	80	100%



行政や民間からの業務委託を受けている団体は、合計で 15%となっている。

e.内訳：自主的・独自の事業による収入

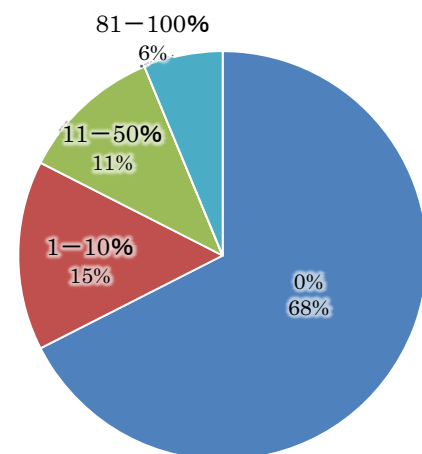
項目	回答数	率
0%	45	56%
1-10%	4	5%
11-50%	19	24%
51-80%	6	7%
81-100%	6	8%
合計	80	100%



自主的・独自の事業による収入が、「0%」と回答した団体が 56%と最も多い。

f.内訳：その他

項目	回答数	率
0%	54	68%
1-10%	12	15%
11-50%	9	11%
50-80%	0	0%
81-100%	5	6%
合計	80	100%

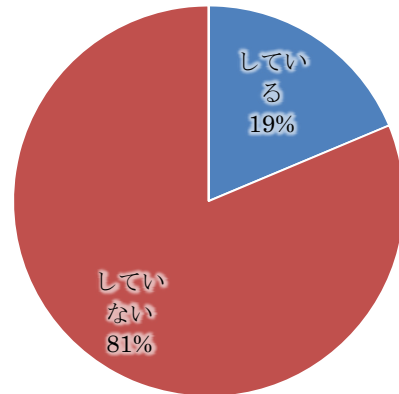


その他に財源を持つ団体は、「0%」と回答した団体が 68%と最も多いが、次いで「1-10%」と回答した団体が 15%、11%以上を占めている団体も 17%あり、約 3 割の団体は上記以外の財源を確保していることが分かる。

③ スタッフ配置

a. 常勤スタッフの配置

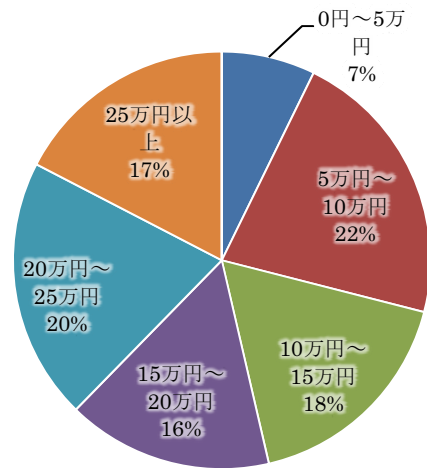
項目	回答数	率
している	17	19%
していない	74	81%
合計	91	100%



常勤スタッフを配置「している」と回答した団体が前回と比べ約 8%減少している。

b. 人件費

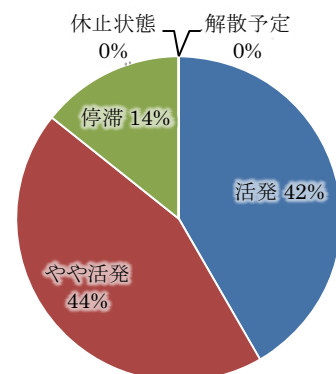
項目	人数	率
0円～5万円	5	7%
5万円～10万円	15	22%
10万円～15万円	12	18%
15万円～20万円	11	16%
20万円～25万円	14	20%
25万円以上	12	17%
合計	69	100%



人件費が、5万円～10万円と回答した団体が 22%と一番多く、次に 20万円～25万円と回答した団体が 20%と多かった。

④ 活動状況

項目	回答数	率
活発	35	42%
やや活発	37	44%
停滞	12	14%
休止状態	0	0%
解散予定	0	0%
合計	84	100%



◆その他：今までどおり

活動状況が、「活発」「やや活発」の割合を合わせると 86%となっている。一方で 14%

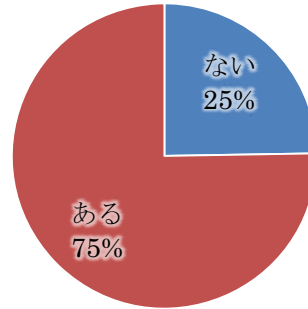
の団体は「停滞」との回答であった。

(3) 活動内容について

①活動する上での悩み

a. 人に関する悩み

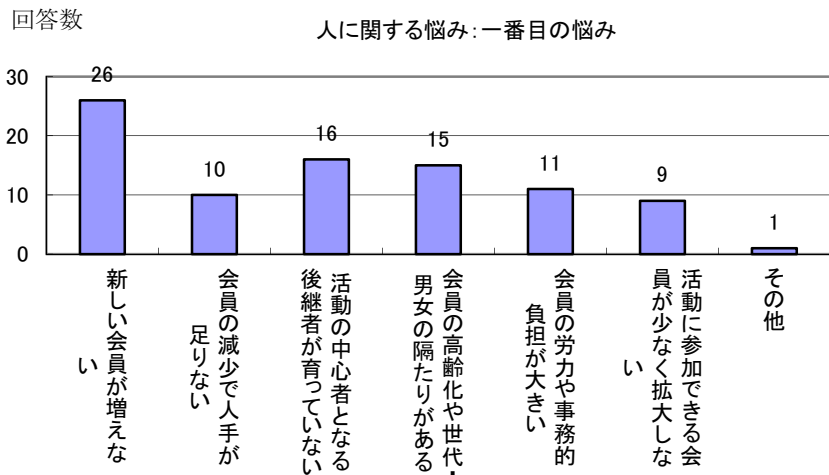
項目	回答数	率
ない	22	25%
ある	67	75%
合計	89	100%



項目	一番目		二番目	
	回答数	率	回答数	率
新しい会員が増えない	26	30%	9	23%
会員の減少で人手が足りない	10	11%	2	5%
活動の中心者となる後継者が育っていない	16	18%	12	32%
会員の高齢化や世代・男女の隔りがある	15	17%	6	15%
会員の労力や事務的負担が大きい	11	13%	4	10%
活動に参加できる会員が少なく拡大しない	9	10%	6	15%
その他	1	1%	0	0%
合計	88	100%	39	100%

★その他

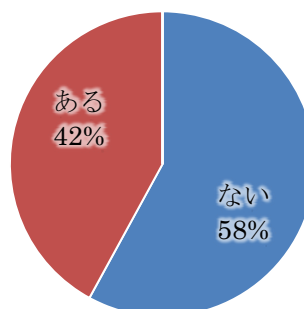
・役員の成り手がいない



75%の団体が、活動する上で、人に関する悩みが「ある」と回答し、その一番目の悩みとして「新しい会員が増えない」が30%という結果となったが、これは前回調査の同様の質問に対する64%を下回った。二番目の悩みとしては、「活動の中心者となる後継者が育っていない」が30%を超える回答があった。

b.情報に関する悩み

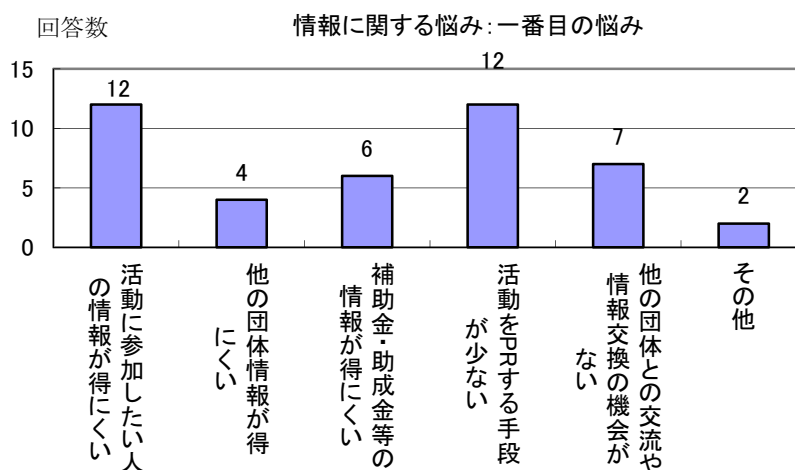
項目	回答数	率
ない	51	58%
ある	37	42%
合計	88	100%



項目	一番目		二番目	
	回答数	率	回答数	率
活動に参加したい人の情報が得にくい	12	28%	3	33%
他の団体情報が得にくい	4	9%	0	0%
補助金・助成金等の情報が得にくい	6	14%	2	23%
活動をPRする手段が少ない	12	28%	1	11%
他の団体との交流や情報交換の機会がない	7	16%	3	33%
その他	2	5%	0	0%
合計	43	100%	9	100%

★その他

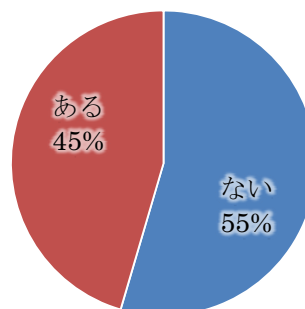
- ・情報が多すぎて整理がむずかしい
- ・活動に意欲的な学生等を呼びたい。学生はアルバイトで忙しく、早い時期に活動日を決められない、ジレンマとなっている。



活動する上で、情報に関する悩みが「ある」団体は約 42%であり、前回調査の 46%からは減少している。「他の団体との交流や情報交換の機会がない」を一番目の悩みとする団体が、前回と比べ 11%ほど増加した。

c.お金に関する悩み

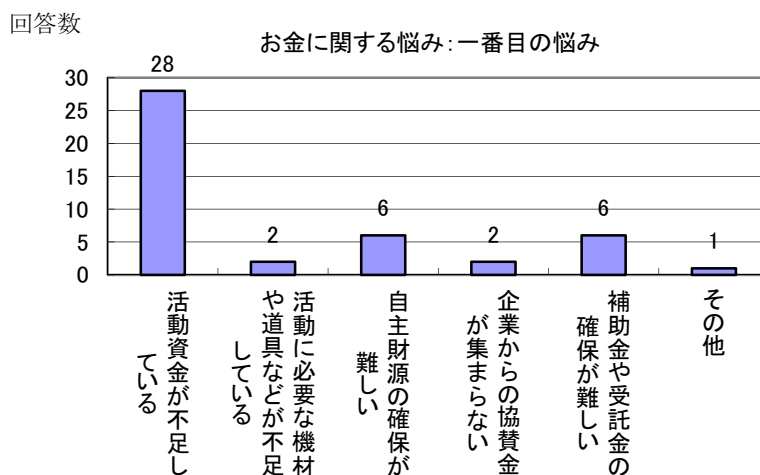
項目	回答数	率
ない	48	55%
ある	40	45%
合計	88	100%



項目	一番目		二番目	
	回答数	率	回答数	率
活動資金が不足している	28	62%	1	7%
活動に必要な機材や道具などが不足している	2	4%	0	0%
自主財源の確保が難しい	6	14%	9	59%
企業からの協賛金が集まらない	2	4%	1	7%
補助金や受託金の確保が難しい	6	14%	3	20%
その他	1	2%	1	7%
合計	45	100%	15	100%

★その他

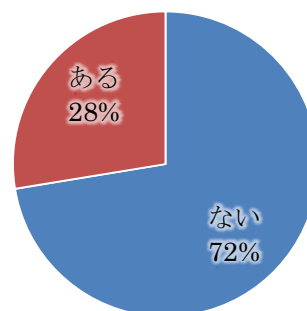
- ・交通費など個人負担でやっているの、できれば会の財源から負担したい。
- ・活動にお金が掛かりすぎている。



活動する上で、お金に関する悩みが「ある」と回答した団体が 45%という結果となった。内訳としては、一番目の悩みとして 62%が「活動資金が不足している」と回答した。二番目の悩みとしては「自主財源の確保が難しい」が多く 59%となっている。

d.場所に関する悩み

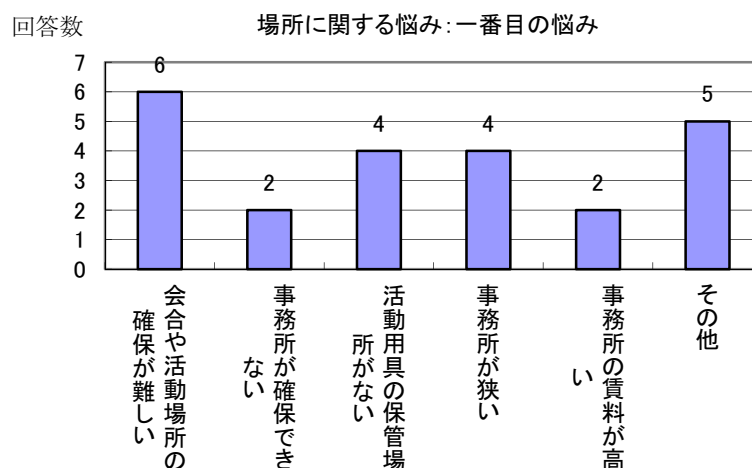
項目	回答数	率
ない	63	72%
ある	24	28%
合計	87	100%



項目	一番目		二番目	
	回答数	率	回答数	率
会合や活動場所の確保が難しい	6	26%	1	13%
事務所が確保できない	2	9%	2	25%
活動用具の保管場所がない	4	17%	3	37%
事務所が狭い	4	17%	2	25%
事務所の賃料が高い	2	9%	0	0%
その他	5	22%	0	0%
合計	23	100%	8	100%

★その他

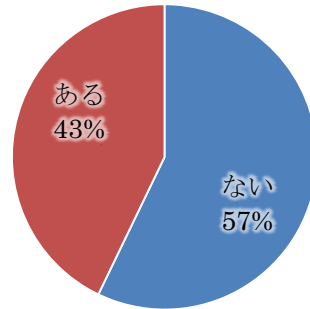
- ・音や声を出す活動などで、迷惑をかけている
- ・活動用具が多く、迷惑をかけている
- ・衣装を公民館に保管しているが、湿気が多くて困っている
- ・専用できる事務室がない
- ・本の保管場所が足りない



活動する上で、場所に関する悩みが「ある」団体は 28%ほどある。一番目の悩みとして「会合や活動場所の確保が難しい」が 26%あり、二番目の悩みとして「活動用具の保管場所がない」が多く 37%となった。

e.その他の悩み

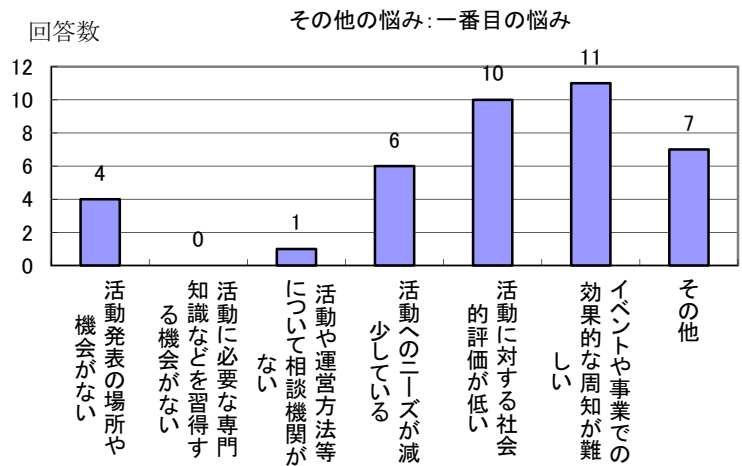
項目	回答数	率
ない	48	57%
ある	36	43%
合計	84	100%



項目	一番目		二番目	
	回答数	率	回答数	率
活動発表の場所や機会がない	4	10%	0	0%
活動に必要な専門知識などを習得する機会がない	0	0%	1	8%
活動や運営方法等について相談機関がない	1	3%	0	0%
活動へのニーズが減少している	6	15%	1	8%
活動に対する社会的評価が低い	10	26%	4	31%
イベントや事業での効果的な周知が難しい	11	28%	7	53%
その他	7	18%	0	0%
合計	39	100%	13	100%

★その他

- ・初心者とベテランとが両立できる学習方法がわからない
- ・年間の公演回数(場所)が固定化してしまっている
- ・学生の参画を継続したいが、後輩へ引き継ぐ流れになっていない
- ・大きな目的、活動が終了している
- ・会員が手話サークル、手話講習会講師など、役割を兼ねていて忙しい
- ・会員に対する教育的なことでリーダーとなる人が少ない



その他の悩みとしては、「イベントや事業での効果的な周知が難しい」が 28%と最も

多いが、前回調査より 8%減少している。

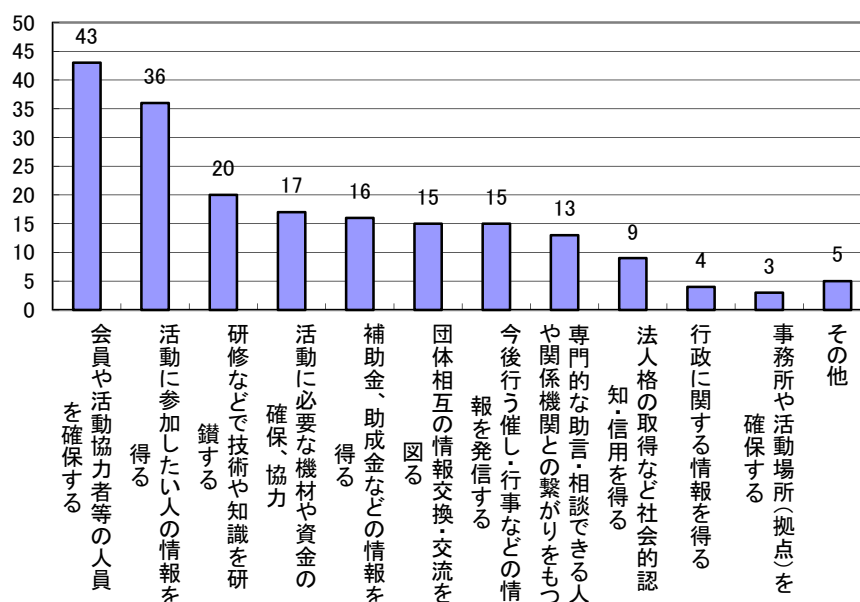
②団体の活動を更に発展させる方法

項目	回答数	率
会員や活動協力者等の人員を確保する	43	21.8%
活動に参加したい人の情報を得る	36	18.4%
研修などで技術や知識を研鑽する	20	10.2%
活動に必要な機材や資金の確保、協力	17	8.7%
補助金、助成金などの情報を得る	16	8.2%
団体相互の情報交換・交流を図る	15	7.7%
今後行う催し・行事などの情報を発信する	15	7.7%
専門的な助言・相談できる人や関係機関とのつながりをもつ	13	6.6%
法人格の取得など社会的認知・信用を得る	9	4.6%
行政に関する情報を得る	4	2.0%
事務所や活動場所（拠点）を確保する	3	1.5%
その他	5	2.6%
合計	196	100.0%

★その他

- ・市の花の認定を受ける活動
- ・特になし
- ・ホームページの作成

活動を更に発展させる方法



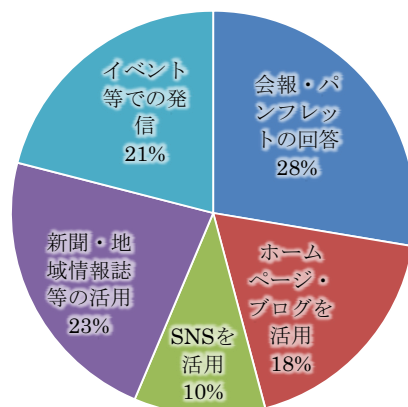
活動を更に発展させる方法として、「会員や活動協力者等の人員を確保する」と考えている団体が 43 団体と最も多く、次いで「活動に参加したい人の情報を得る」(36 団体)、「研修などで技術や知識を研鑽する」(20 団体)、「活動に必要な機材や資金の確保、

協力」(17団体)となっている。

③情報発信の方法と頻度

a.方法

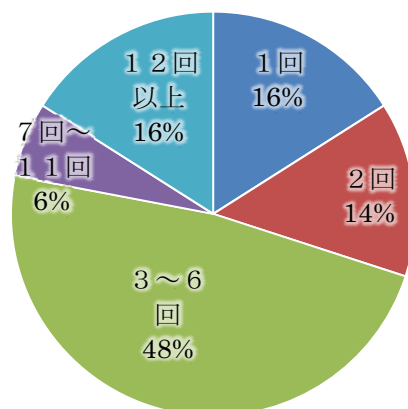
項目	回答数	率
会報・パンフレットの回答	50	28%
ホームページ・ブログを活用	33	18%
SNSを活用	19	10%
新聞・地域情報誌等の活用	41	23%
イベント等での発信	38	21%
合計	181	100%



b.頻度

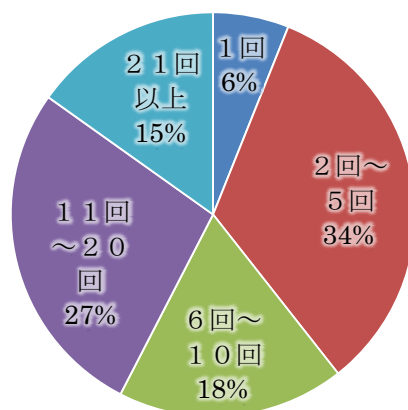
①会報・パンフレットの発行(年)

項目	回答数	率
1回	8	16%
2回	7	14%
3～6回	24	48%
7回～11回	3	6%
12回以上	8	16%
合計	50	100%



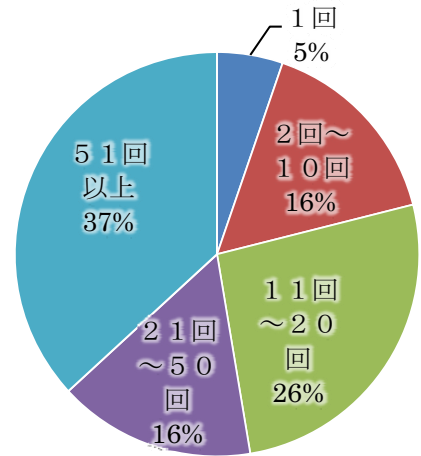
②ホームページ・ブログを活用

項目	回答数	率
1回	2	6%
2回～5回	11	34%
6回～10回	6	18%
11回～20回	9	27%
21回以上	5	15%
合計	33	100%



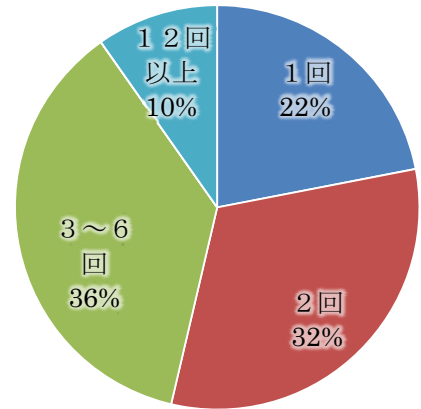
③SNS を活用

項目	回答数	率
1回	1	5%
2回～5回	3	16%
6回～10回	5	26%
11回～20回	3	16%
21回以上	7	37%
合計	19	100%



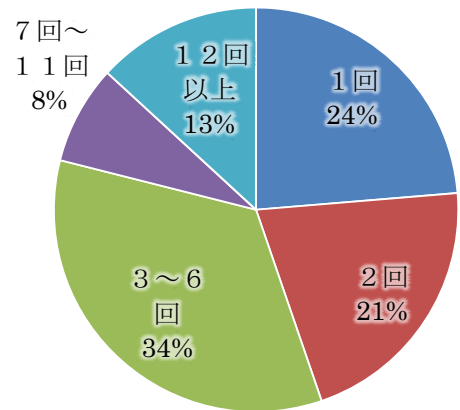
④新聞・地域情報誌等のメディア

項目	回答数	率
1回	9	22%
2回	13	32%
3～6回	15	36%
7回～11回	0	0%
12回以上	4	10%
合計	41	100%



⑤イベント等での発信

項目	回答数	率
1回	9	24%
2回	8	21%
3～6回	13	34%
7回～11回	3	8%
12回以上	5	13%
合計	38	100%



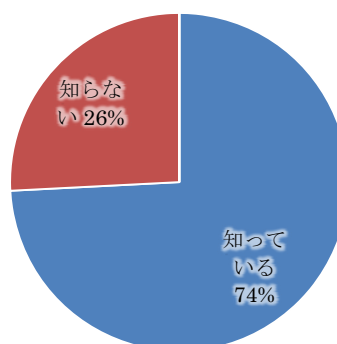
情報発信の手法としては、会報が 28%と最も多く、SNS の活用は 10%と最も少ない。
 それぞれの頻度としては、会報・パンフレットは「3～6回」が 48%、ホームページ・
 ブログは「2回～5回」が 34%、SNS の活用は「21回以上」が 37%、新聞・地域情
 報誌等のメディアは「3～6回」が 36%、イベント等での発信は「3～6回」が 34%と、

それぞれ最も多くなっている。

④コラボのたねについて

a. コラボのたねを知っているか

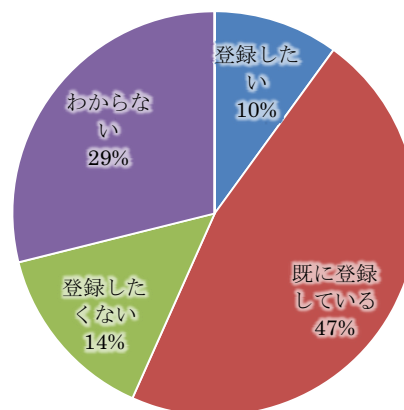
項目	回答数	率
知っている	69	74%
知らない	24	26%
合計	93	100%



コラボのたねについては、74%の団体が「知っている」との回答だった。

b. コラボのたねへの登録を希望しますか

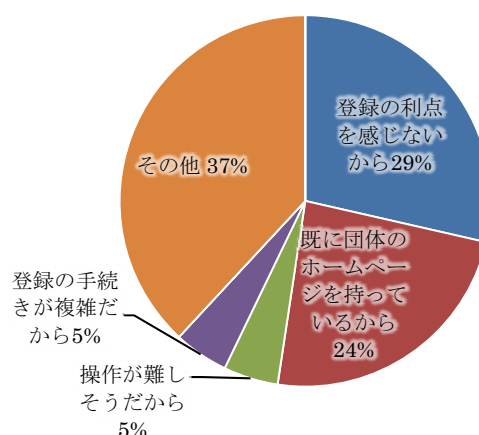
項目	回答数	率
登録したい	9	10%
既に登録している	42	47%
登録したくない	13	14%
わからない	26	29%
合計	90	100%



コラボのたねの登録の希望では、既に登録している団体を除くと、「登録したい」が19%、「登録したくない」が27%となっている。

c. 登録したくない理由

項目	回答数	率
登録の利点を感じないから	6	29%
既に団体のホームページを持っているから	5	24%
操作が難しそうだから	1	5%
登録の手続きが複雑だから	1	5%
登録条件を満たさないから	0	0%
その他	8	37%
合計	21	100%



前問でコラボのたねに「登録したくない」と回答した団体に、その理由を答えてもらったところ、「登録の利点を感じないから」が29%、「既に団体のホームページを持

っているから」が 24%となった。その他を回答した団体のうち、具体的な記述について以下に列記する。

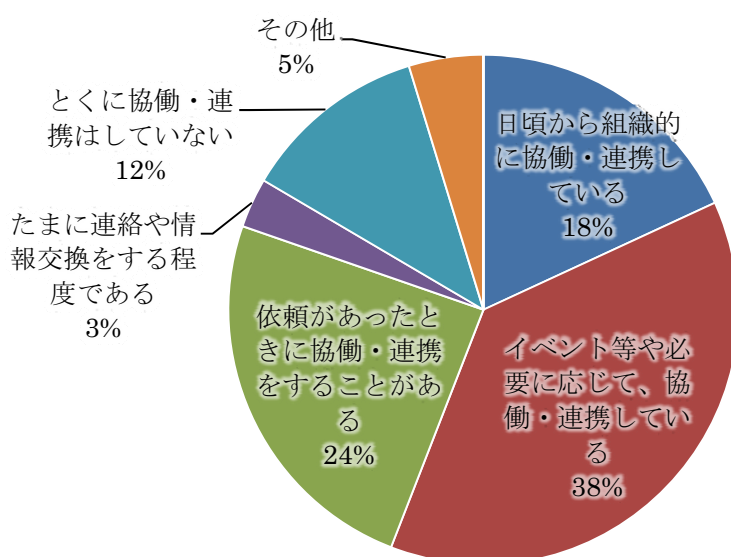
★その他

- ・グループ活動の目的がまったく違うから
- ・必要性を感じないから
- ・活動の場が増えると人件費等色々掛かるため
- ・市から委嘱された委員による団体のため
- ・自分1人でやることになるから
- ・グループ活動の目的がまったく違うから

(4) 行政等、他団体との協働・連携について

①協働・連携があるか

項目	回答数	率
日頃から組織的に協働・連携している	23	18%
イベント等や必要に応じて、協働・連携している	48	38%
依頼があったときに協働・連携をすることがある	31	24%
たまたま連絡や情報交換をする程度である	4	3%
とくに協働・連携はしていない	15	12%
その他	6	5%
合計	127	100%



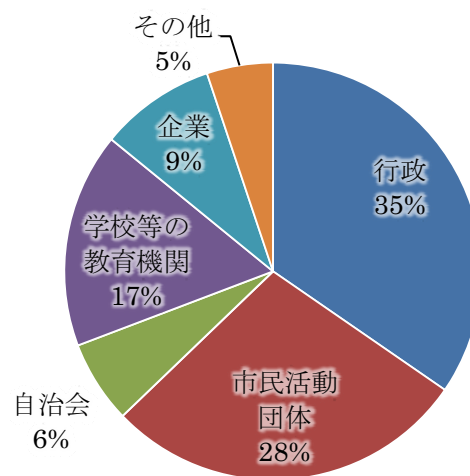
★その他

- ・ 商工労働課、観光協会の職員の方が月 1 の例会に情報を提供して下さる
- ・ 今後は検討していきたい
- ・ 国際交流推進協議会を通じて連携している
- ・ しようと考えている

協働・連携があるかについて、「イベント等や必要に応じて～」が 38%と最も多くなっており、次いで「依頼があったときに～」が 24%と前回同様の傾向である。「日頃から組織的に～」は前回調査では 24%だったのに対し、今回は 18%となっている。

②協働・連携して取組んだ活動

項目	回答数	率
行政	27	35%
市民活動団体	22	28%
自治会	5	6%
学校等の教育機関	13	17%
企業	7	9%
その他	4	5%
合計	78	100%



協働・連携先としては、「行政」が 35%と最も多く、次いで「市民活動団体」が 28%となっており、前回調査と同様の傾向となっている。尚、具体的な内容は次頁の通りとなっている。

◆具体的な活動内容(アンケートへの記載に基づいて掲載)

イベント	<ul style="list-style-type: none"> ・共催団体としてイベントに参加 ・札幌地区重症心身障害児(者)を守る会が、例年開催しているクリスマス交流会に、10年ほど前から参加しています ・おはなしいっぱい(図書館)参加 ・情報図書館「おはなしいっぱい」に参加、人形劇の公演 ・年に一度、行事(固定)への参加(・こいのぼりフェスタ・おはなしいっぱい・自治会青少年育成のつどい・幼稚園保育園誕生会・支援学校行事・江別市クリスマス会等) ・小学校の食育授業への大学生、社会人の参加 ・リングプル集めの活動の参加 ・小学校のお祭りに参加し、防災グッズ等の展示、新聞紙で作った簡易トイレなどの公開 ・市の「環境ひろば」に参加 ・市内外イベントへの協力 ・東日本大震災について市民と一緒に考えるイベントでの情報提供(パネル展示) ・行政(図書館)のボランティア活動イベントへの協力、賛助 ・あけぼのパークゴルフ場での健康相談、5月～10月の月2回 ・厚別区民まつり、北海鳴子まつり等 ・石狩川流域、湿地、水辺、海岸ネットワークでの展示 ・英語指導助手(ALT)との交流を通して日本文化の紹介 ・江別ふれあい福祉の広場の開催(各参画団体、社協共募による実行委員会方式) ・自治会での会館でひろばの定期開催や多世代サロンなど ・全道ろうあ者大会、全道ろうあ者夏季体育大会開催のお手伝い ・みんなおいでよ江別”世界市民の集い”の開催 ・無書店自治体で移動図書販売を行う「走る本屋さん」を開催 ・木製戦闘機キ106のパネル展示、野幌公民館で開催 ・病院ボランティア国際フォーラム開催準備に参加 ・大麻高校演劇部の連携で「青藍の空高く」を江別コミセンで開催 ・児童会の依頼により人形劇公演 ・手話歌あやとりと手話の会と3団体で合同の活動を数回実施 ・情報図書館から「読書週間に人形劇を」依頼の受諾、公演 ・全道ろうあ者夏季体育大会 ・パネル展示 ・フリーマーケット会場、市(イオン)の駐車場を借りている ・ふれあい広場、文化祭、交流会、対面朗読等
------	--

	・ホームステイのボランティア・交流会等
イベント	・保健センター、ブックスタートへの協力(ねんねの会)
	・やきもの市
	・幼稚園、保育園での依頼で人形劇公演

講座・講演・研修会	・イベントや消費者被害防止のための講座
	・市民会館自主事業の健康講座、不定期、年 4～5 回
	・木製戦闘機キ 106 を語る会の講演を記録 江別創造舎と制作
	・毎年の講演会
	・研修会や講演会等の参加
	・北海道病院ボランティアネットワーク、日本病院ボランティア協会など研修会、講演会
	・野鳥お勉強会特別企画講演会講師
	・江別市よりの依頼で 3 公民館での人形劇講演
	・江別市手話講演会運営委員会との連携
	・地区研修(自治会や学校 PTA などへ悪質商法・かんきょうすごろく・かるた、清涼飲料水の簡易実験など)
	・札幌社会福祉協議会主催、研修会「病院ボランティア活動について」事例発表
	・消費者協会より料理教室講師依頼
	・教室の講師依頼、いずみ野小学校 PTA 保護者料理教室講師依頼
	・大麻第2住区女性部より依頼され料理教室講師依頼
	・明治、大塚製薬、アテリオバイオ(株)等より料理教室講師依頼
	・生涯学習、蒼樹大学、聚楽学園講師
	・講習会、講師の派遣
	・江別市手話講習会講師派遣
	・江別市教育委員会より食育講師、講師依頼
	・過去に学校の依頼で点字の講習を行いました
・江別市手話講習会、防災 DIG、クロスロード	
・江別市との共催、文化協会の後援(発表会)	
・講話&カルタ大会	

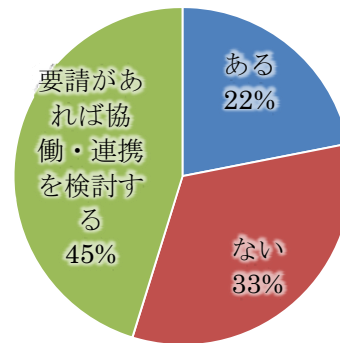
継続的活動・事業	・委託事業として市と協働している(買い物ゲーム)配布しているマイバッグの協力
	・一時預かり保育事業など
	・協働のまちづくり支援事業等との連携
	・市やスポーツ振興財団からの依頼によるスポーツ事業での指導など
	・青少年の為の市民会議、大麻文京台まちづくり協議会の事業及び役員参画

	<ul style="list-style-type: none"> ・えべつ環境広場
継続的活動・事業	<ul style="list-style-type: none"> ・江別市社会福祉協議会からの依頼による奉仕活動
	<ul style="list-style-type: none"> ・共同募金会(諸奉仕)
	<ul style="list-style-type: none"> ・各種行事での演奏
	<ul style="list-style-type: none"> ・上江別小学校 PTA より毎年夏休みと冬休みに親子料理
	<ul style="list-style-type: none"> ・商店街の清掃活動
	<ul style="list-style-type: none"> ・商品へのデザインの提供や PR への協力
	<ul style="list-style-type: none"> ・情報大学、南京大留学生との交流
	<ul style="list-style-type: none"> ・植樹、育樹
	<ul style="list-style-type: none"> ・年 1 回の情報誌の配布、文化祭ポスター・チラシの配布
	<ul style="list-style-type: none"> ・ノハナショウブ保存会との共同調査
	<ul style="list-style-type: none"> ・ホテルの会、早苗別川の清掃
	<ul style="list-style-type: none"> ・養護学校や大学から体験実習の受け入れ
	<ul style="list-style-type: none"> ・留守家庭児童会に於ける「読み聞かせ」
	<ul style="list-style-type: none"> ・徒歩案内、バス案内、ウォーキング同好会、その他市外からの名所の見学

その他	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉協議会、視覚障害者協会、恵明園との連携
	<ul style="list-style-type: none"> ・評議委員会他各種委員会等の連携
	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道大学、道庁、上川町、他多数との連携
	<ul style="list-style-type: none"> ・学生地域定着広域連携推進協議会との連携
	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉施設協議会との連携
	<ul style="list-style-type: none"> ・AC 総研、江別シティプロモート推進協議会との連携
	<ul style="list-style-type: none"> ・江別国際交流協議会との連携
	<ul style="list-style-type: none"> ・HP の共有
	<ul style="list-style-type: none"> ・江別市作成の地域福祉計画と社協作成の地域福祉実践計画の作成
	<ul style="list-style-type: none"> ・各種委員会・審議会等に委員を推薦
	<ul style="list-style-type: none"> ・江別市スポーツ振興財団、江別市生涯学習協議会の役員派遣
	<ul style="list-style-type: none"> ・行政が行っている自立支援協議会に参加
	<ul style="list-style-type: none"> ・姉妹都市グresham市の訪問団来江の際の通訳
	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習推進協議会への参画(理事)
	<ul style="list-style-type: none"> ・江別市認定審査会委員等との連携
	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者被害防止ネットワークの活用
	<ul style="list-style-type: none"> ・他の市民団体との共催及び後援要請の実施
	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生訪問団の報告書(教育委員会発行)の翻訳

③今後協働・連携して取り組みたい活動

項目	回答数	率
ある	16	22%
ない	24	33%
要請があれば協働・連携を検討する	33	45%
合計	73	100%



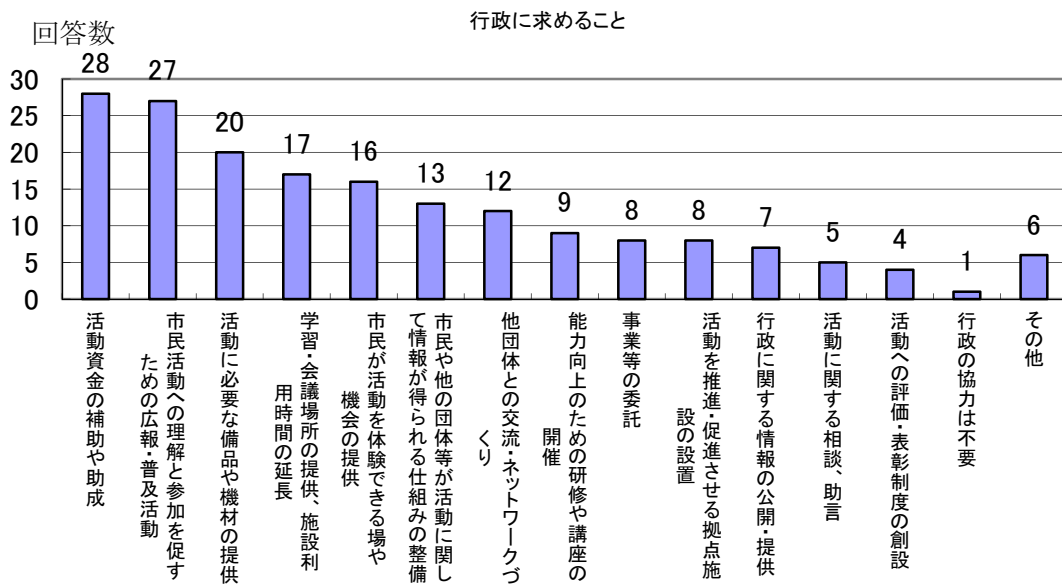
◆相手先と取り組みたい活動内容(アンケートへの記載に基づいて掲載)

- ・江別市内にある大学の文化系サークルとの交流
- ・女性の自立支援、地域の子育て支援など、子どもや子育てへの支援
- ・若者のキャリア等への支援
- ・より良い文化的な催しをもっと気楽に公民館等で行う
- ・在日外国人、留学生の生活相談、他の国際交流団体との連携活動
- ・運動公園水生植物園の植生再生
- ・青少年の相談事業
- ・ぽこあぼこやすくすくなど、人形劇やパネルシアターなどの公演
- ・教育委員会、演劇のワークショップ
- ・市民運動、環境保護団体等の活動の取材、放送
- ・道、市と共催して開道 150 周年の講演会、写真展を行う
- ・具体的な物は浮かばないが、思いはある
- ・大学祭実行委員会とコラボ連携、コスプレ等の実施
- ・「観光ボランティア」で行事企画の際は同行して活動させていただけたらと思います。
(耳の不自由な人も参加できるので)
- ・市内外の自然保護団体との連携
- ・木製戦闘機製作は立川と富山でも製作しており、相手先の市民団体と連携したい、情報交換したい
- ・道立図書館さんや道内図書館さん、書店さんと連携した道内の読書環境向上につながる事業
- ・新しい参加団体、企業にえべつ環境広場に参加してほしい
- ・災害予防（江別市消防危機管理室）
- ・江別の歴史を基にした演劇など

(5) 市民活動の促進について

① 行政に求めること

項目	回答数	率
活動資金の補助や助成	28	15.5%
市民活動への理解と参加を促すための広報・普及活動	27	14.9%
活動に必要な備品や機材の提供	20	11.0%
学習・会議場所の提供、施設利用時間の延長	17	9.4%
市民が活動を体験できる場や機会の提供	16	8.8%
市民や他の団体等が活動に関して情報が得られる仕組みの整備	13	7.2%
他団体との交流・ネットワークづくり	12	6.6%
能力向上のための研修や講座の開催	9	5.0%
事業等の委託	8	4.4%
活動を推進・促進させる拠点施設の設置	8	4.4%
行政に関する情報の公開・提供	7	3.9%
活動に関する相談、助言	5	2.8%
活動への評価・表彰制度の創設	4	2.2%
行政の協力は不要	1	0.6%
その他	6	3.3%
合計	181	100.0%



◆その他(アンケートへの記載に基づいて掲載)

・江別市内に居住する、文化・科学等全般に亘る著名人を、江別市として一括把握し、市民との交流の機会をはかる為の企画、立案

- ・思いの共有と「積極性」
- ・公民館は 22 時迄にするべき
- ・活動が年々縮小しているの存続も分からない
- ・特になし

①市が、「市民協働型まちづくり推進方針（平成 14 年 9 月）」を示してから 15 年が経過しているが、すべてが目標に到達しているわけではなく、また時代環境も変化しているため、もう一度、市が考える市民協働のあり方を明確にし、市民協働・市民活動を推進するための土台を固めること。

②地域課題を整理し、採算が取れそうなものは市民主体の協働に、採算がとれなさそうなものは行政主体の協働にというように、こうした整理・とりまとめ・方向づけ（市民活動・市民協働の推進に関する計画）を、他市事例を研究しながら行うこと。

③市直営を市民活動団体に委託することや、協働したいテーマを挙げて提案を募るなど、市の主体的な市民活動団体への積極的な呼びかけを行うこと。ただし、丸投げにならないように（市の事務事業評価・予算を見ると、市民活動団体への委託内容に疑問を感じることもあるので、人的にも資金的にも、怠りがないように努めること）

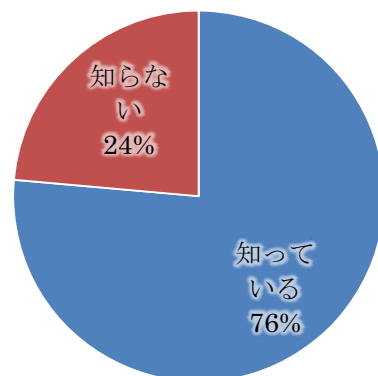
④資金調達の具体的な方策として、市民から募集したプロジェクトにふるさと納税によるクラウドファンディングを活用することや、人的支援として地域おこし協力隊制度を活用するなど、市民活動・市民協働の推進に関する市民活動の伴走者として知恵を絞り、市民活動をバックアップするための、あらゆる可能性を検討すること。

「活動資金の補助や助成」が 15.5%と最も多く、「市民活動への理解と参加を促すための広報・普及活動」が 14.9%と続く結果となった。

(6) 「市民活動団体版出前講座」について

a. 「市民活動団体版出前講座」を知っているか

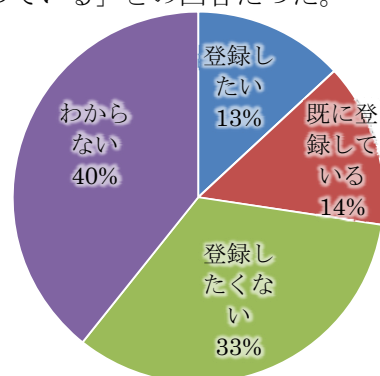
項目	回答数	率
知っている	68	76%
知らない	21	24%
合計	89	100%



市民活動団体版出前講座については、76%の団体が「知っている」との回答だった。

b. 「市民活動団体版出前講座」への登録を希望するか

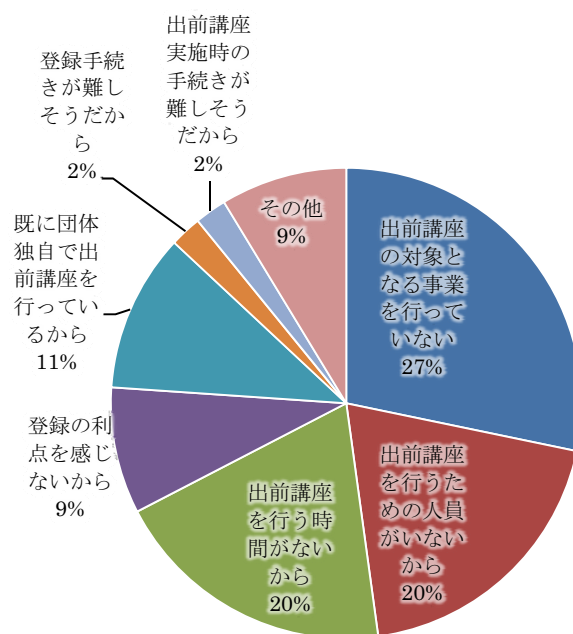
項目	回答数	率
登録したい	11	13%
既に登録している	12	14%
登録したくない	28	33%
わからない	33	40%
合計	84	100%



出前講座の登録の希望では、既に登録している団体を除くと、「登録したい」が13%、「登録したくない」が40%となっている。

c. 登録したくない理由

項目	回答数	率
出前講座の対象となる事業を行っていない	13	27%
出前講座を行うための人員がないから	9	20%
出前講座を行う時間がないから	9	20%
登録の利点を感じないから	4	9%
既に団体独自で出前講座を行っているから	5	11%
登録手続きが難しそうだから	1	2%
出前講座実施時の手続きが難しそうだから	1	2%
その他	4	9%
合計	46	100%



前問で出前講座に「登録したくない」を回答した団体に、その理由を答えてもらったところ、「出前講座の対象となる事業を行っていない」が27%、「出前講座を行うための人員がないから」「出前講座を行う時間がないから」がそれぞれ20%となった。その他を回答した団体のうち、具体的な記述について次頁に列記する。

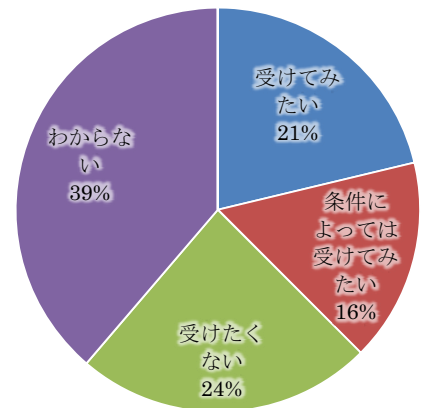
★その他

- ・ 出前講座、講習会などは、運営委員会にて一括で調整を行っているため
- ・ 講習会運営委員会があり、サークル独自ではできない
- ・ 既に市教委が行う軽スポーツ出前事業への協力を行っているから

(7) 協働のまちづくり活動支援事業について

① 協働のまちづくり支援を受けたいか

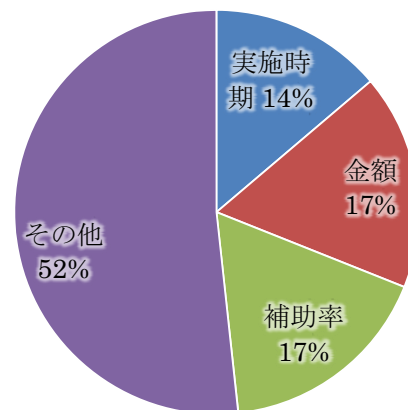
項目	回答数	率
受けたい	17	21%
条件によっては受けたい	13	16%
受けたくない	19	24%
わからない	31	39%
合計	80	100%



② (条件によっては受けたいと答えた団体)

どのような条件があれば受けたいか

項目	回答数	率
実施時期	4	14%
金額	5	17%
補助率	5	17%
その他	15	52%
合計	29	100%



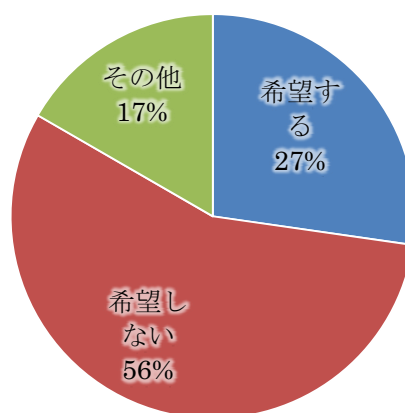
◆その他(アンケートへの記載に基づいて掲載)

- ・ 補助条件が分からない
- ・ 条件がゆるい
- ・ 内容
- ・ 検討中

- ・ 妥当な金額
- ・ 手続き方法
- ・ 状況次第
- ・ 人件費としても使用出来たら嬉しい
- ・ 活動ができる人材がいた場合
- ・ 内容が明確でなくても良いのであれば

③前年度中に選考があり、その決定を受けて補助事業を実施する場合、支援を希望するか

項目	回答数	率
希望する	18	27%
希望しない	37	56%
その他	11	17%
合計	66	100%



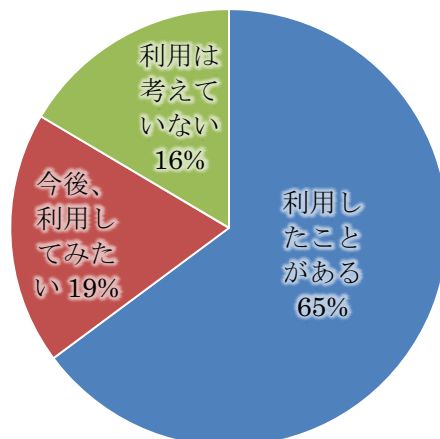
◆その他

- ・ 何とも言えない
- ・ 補助事業の対象となる活動をしていない
- ・ 検討中
- ・ 金額は少額でも良いと思うが、条件にもよる
- ・ 可能性はあるかもしれない
- ・ 当会の事業が対象となるのかが分からない
- ・ 大きな事業がある時は受けてみたい
- ・ 申請する事業の内容による

(8) 江別市民活動センターについて

①江別市民活動センターを利用したことがあるか

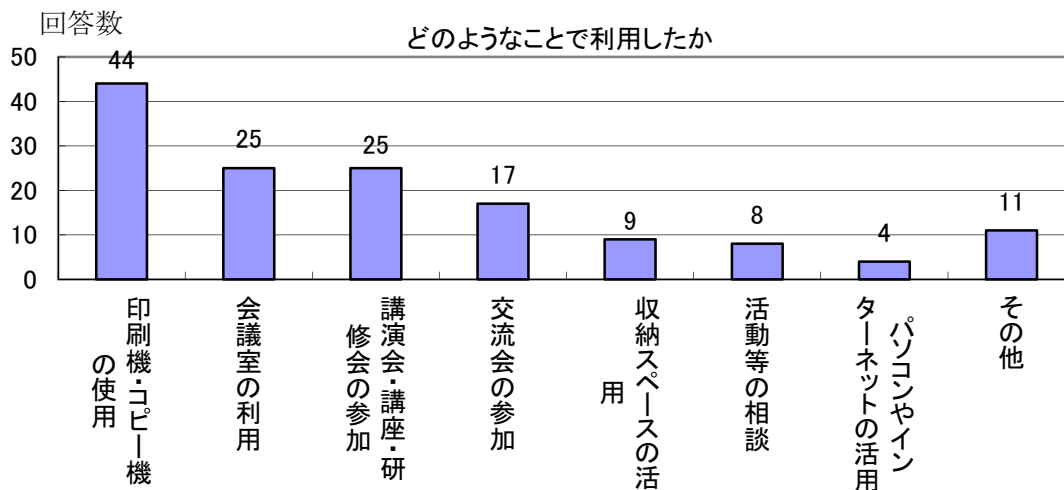
項目	回答数	率
利用したことがある	59	65%
今後、利用してみたい	17	19%
利用は考えていない	15	16%
合計	91	100%



同センターの利用について、「利用したことがある」は前回調査と比べ5%増加、「今後、利用してみたい」は9%増加している。一方で「利用は考えていない」は14%の減少となった。

②どのようなことで利用したか

項目	回答数	率
印刷機・コピー機の使用	44	31%
会議室の利用	25	17%
講演会・講座・研修会の参加	25	17%
交流会の参加	17	12%
収納スペースの活用	9	6%
活動等の相談	8	6%
パソコンやインターネットの活用	4	3%
その他	11	8%
合計	143	100%



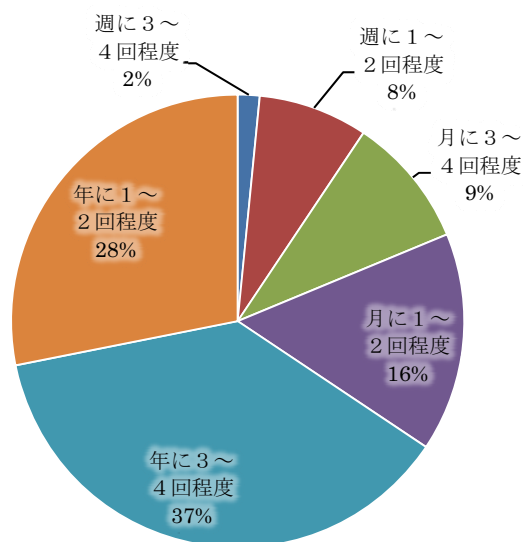
◆その他

- ・パソコンを教えてもらった
- ・給湯等の借用
- ・プロジェクター・スクリーンの活用
- ・ポスターの掲示
- ・チラシの配布

センターの利用目的では、「印刷機・コピー機の使用」が最も多く、次いで「会議室の利用」「講演会・講座・研修会の参加」となっている。

③利用頻度

項目	回答数	率
週に3～4回程度	1	2%
週に1～2回程度	5	8%
月に3～4回程度	6	9%
月に1～2回程度	10	16%
年に3～4回程度	24	37%
年に1～2回程度	18	28%
合計	64	100%



利用頻度は、前回調査では「年に1～2回」(41%)が最も多かったが、今回調査では「年に3～4回程度」が37%と一番多くなっている。

④配慮して欲しい要望等(アンケートへの記載に基づいて掲載)

- ・スタッフの方は親切。スタッフの給与など市がもっと負担すべき
- ・感謝しております
- ・野幌駅前にあったころは月に3～4回利用していた
- ・移転してからは利用してないので、分からない
- ・いつもご親切に対応していただき、感謝しております
- ・特にありません
- ・印刷機の使用が予約できるようになったのは時間のムダにならず良い方法

- ・土・日曜日の開館時間が短いような気がする
- ・もっと発信、アナウンスが必要かと思えます。どういうことをしていて、どういう特徴や良い点があるかなど
- ・机とか椅子がこわれているものがあるので安全な物にしてほしい。持ち運びがたいへんなものを保管しておけるところがあるといい
- ・特になし
- ・休日も利用出来る様にしてほしい
- ・いつも気軽に相談を含め利用させてもらっています。とても助かっています。大変有難いです
- ・床の状態がカーペット仕様なので、床ばり、P タイル等、すべりが良いと、使用しやすくなるのでは
- ・点訳作業には原本のコピーが必須です。コピー代が安くなるといいです

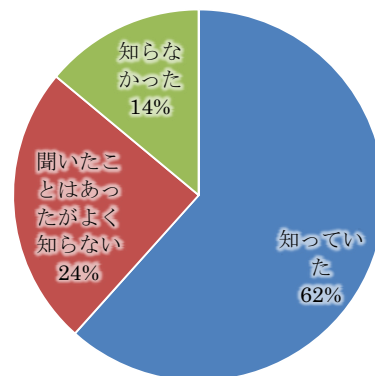
⑤「利用は考えていない」理由(アンケートへの記載に基づいて掲載)

- ・市民だれもが気楽に利用できるセンターにしてほしい
- ・研修会等への参加は検討したいと思います
- ・市から委嘱された委員による任意の団体であり、活動場所等が確保されているため
- ・活動や練習は、情報図書館の部屋を無料で使用させてもらっている為、利用は考えていない
- ・日赤奉仕団員の高齢化と減少により今の活動を維持するのが精一杯なので

(9) 認定 NPO について

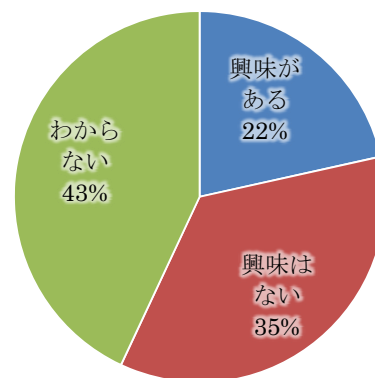
① 認定 NPO を知っていたか

項目	回答数	率
知っていた	53	62%
聞いたことはあったがよく知らない	21	24%
知らなかった	12	14%
合計	86	100%



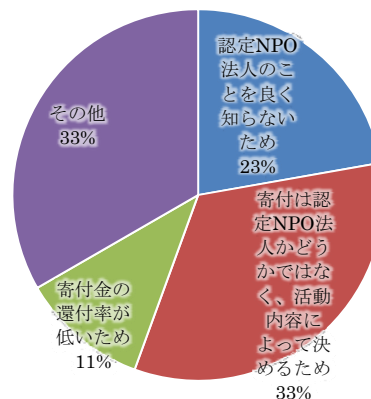
② 認定 NPO 法人への寄付に興味がありますか

項目	回答数	率
興味がある	17	22%
興味はない	28	35%
わからない	34	43%
合計	79	100%



③ 認定 NPO への寄付に興味がない理由

項目	回答数	率
認定 NPO 法人のことを良く知らないため	6	23%
寄付は認定 NPO 法人かどうかではなく、活動内容によって決めるため	9	33%
寄付金の還付率が低い	3	11%
その他	9	33%
合計	27	100%



◆ その他(アンケートへの記載に基づいて掲載)

- ・ 本法人の今後の存続自体が明確でないため
- ・ 当会は該当しないため。
- ・ こちらが寄附を欲しいくらい財政が大変だから
- ・ 社協は社会福祉法人であり、その性質上、他団体への寄付は適切ではないと思います。
- ・ 手続きが複雑。労力がかかる。認証まで時間がかかる。
- ・ 小さな文庫活動なので
- ・ NPO 法人への移行は考えていないため。
- ・ 必要性がない
- ・ 私達の団体と関連がないと思うから
- ・ 法人として活動するような組織ではないため。

(10) その他

①新しい活動団体の情報

回答無し

②その他要望等(アンケートへの記載に基づいて掲載)

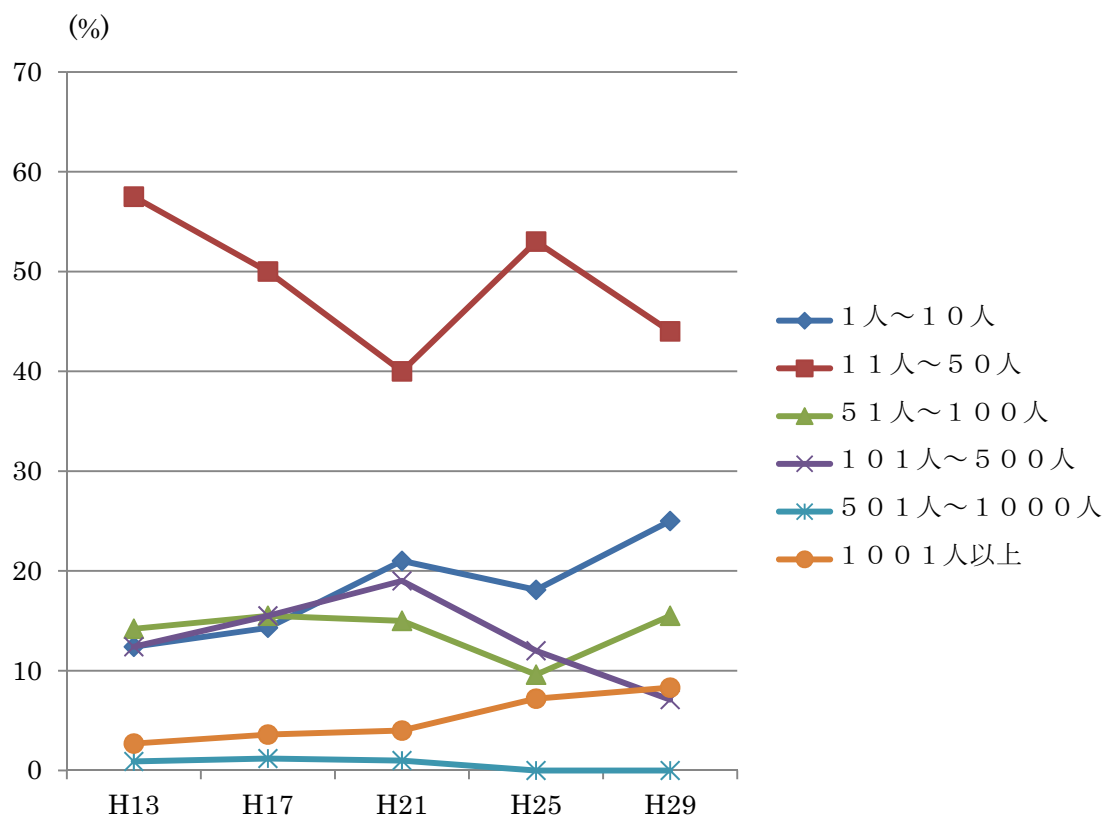
- ・いろいろ活動していただきありがたくもあり、嬉しくも思います。もっともっとすばらしい取り組みを色々なツールを利用したら、様々なヒト、モノとコラボして発信したり、新しい価値を生み出してほしいと思っています。
- ・新しい市民活動団体で若い世代を活動に取り込むことに成功した例があれば、その団体の中心になっている人を講師にイキのいい話が聞きたいです。
- ・江別はより文化の街として、演劇等の団体、演劇鑑賞会や子ども劇場など長く、独力でやっているところをいろんな面で援助して欲しい。
- ・市民活動の拠点として活動、より一層の発展を祈ります。
- ・特にありません。
- ・他の団体が何か催事をするときに、私たちの団体を利用してほしい。手話も同じだが、「手話・要約筆記が付きます」とPRしていただければ、耳の不自由な人が参加できる。この働きかけを、私たちの団体から他の団体に直接していいのか、センターの方でまとめて知らせて頂けるのか、と思います。
- ・いつも様々な案内等ありがとうございます。Pieceは、皆現役の職業人のため、時間もあまりとれず、今の活動を精一杯させていただいております。情報が送られてくることは、とてもありがたいことです。何かありましたら今後とも宜しくお願い致します。
- ・当会は月一度の勉強会(札幌市内居酒屋)、交流事業(イベント)などで開催しており、貴団体、えべつ市民とどのように関わってよいか、悩んでいる。
- ・いつもお世話になっております。今後とも何卒宜しく願いいたします。

資料1 平成13年、17年、21年、25年、29年の調査結果の比較

※有効回答数：平成13年(122)、17年(101)、21年(140)、25年(100)、29年(95)

(1) 会員数の推移

会員数	H13	H17	H21	H25	H29
1人～10人	12.4	14.3	21.0	18.1	25.0
11人～50人	57.5	50.0	40.0	53.0	44.1
51人～100人	14.2	15.5	15.0	9.6	15.5
101人～500人	12.4	15.5	19.0	12.1	7.1
501人～1000人	0.9	1.2	1.0	0.0	0.0
1001人以上	2.7	3.6	4.0	7.2	8.3

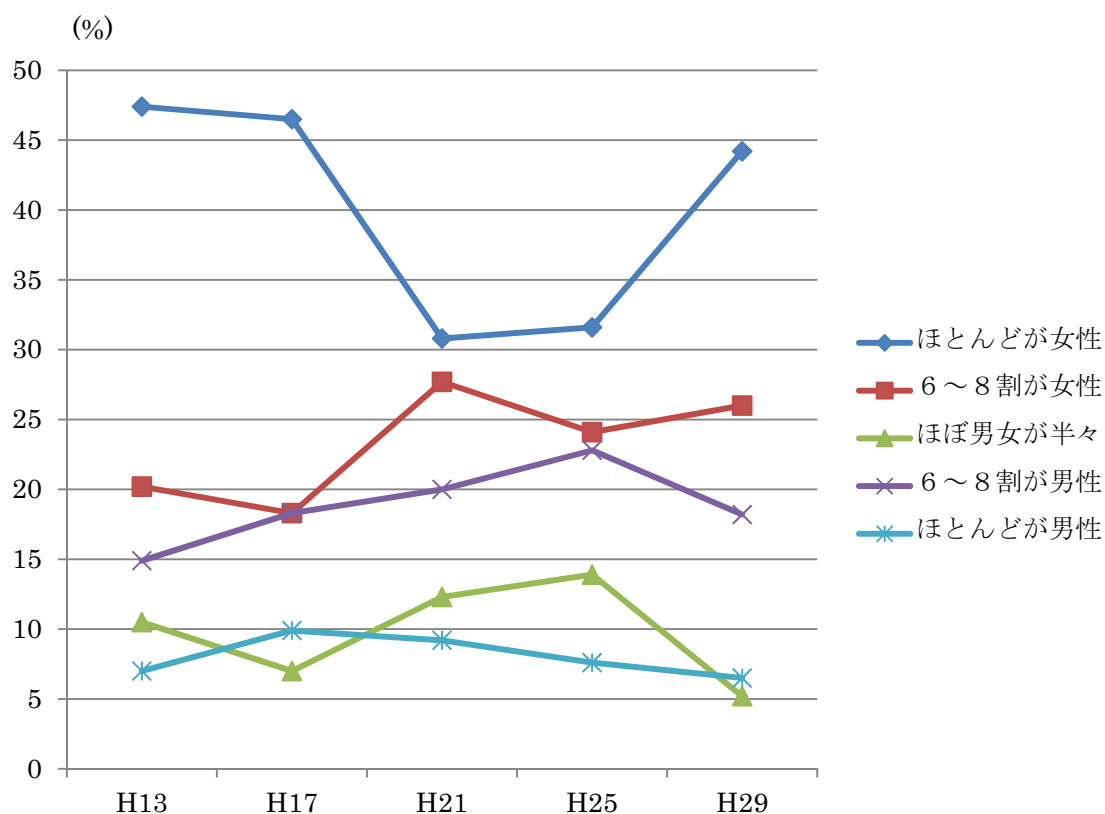


・11～50人の会員数の団体は約9%の減少となっている。

(2) 会員の男女比

(%)

項目	H13	H17	H21	H25	H29
ほとんどが女性	47.4	46.5	30.8	31.6	44.1
6～8割が女性	20.2	18.3	27.7	24.1	26.0
ほぼ男女が半々	10.5	7.0	12.3	13.9	5.2
6～8割が男性	14.9	18.3	20.0	22.8	18.2
ほとんどが男性	7.0	9.9	9.2	7.6	6.5



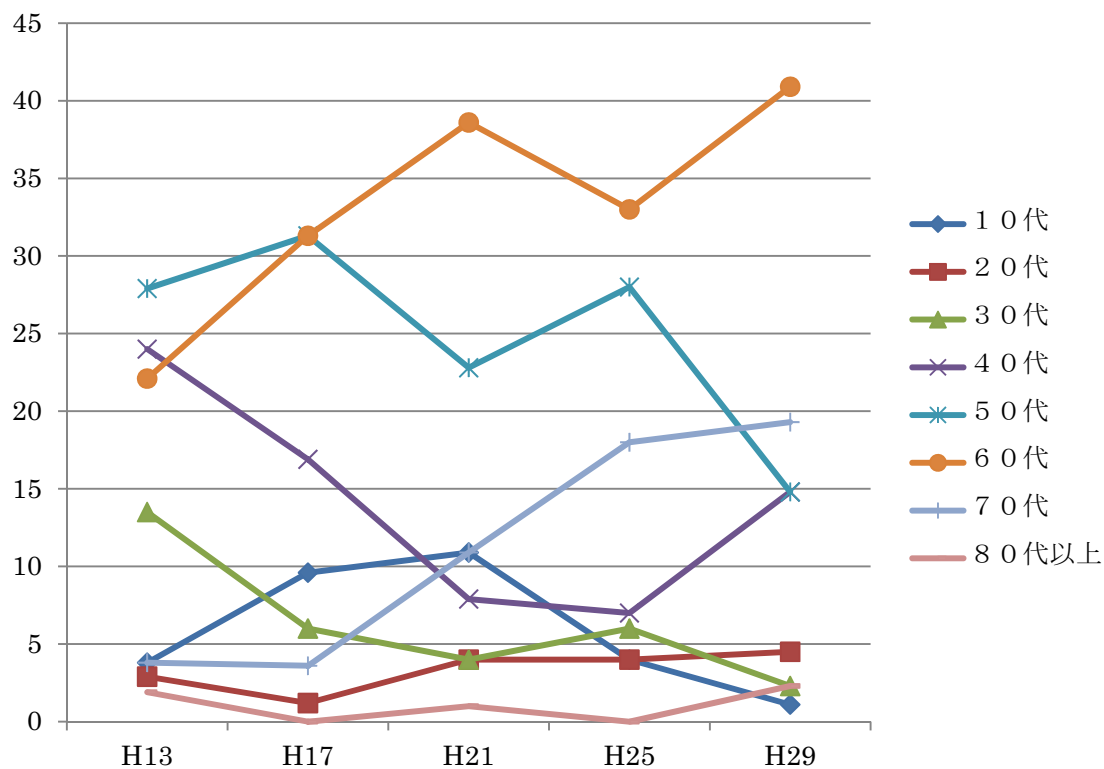
- ・ほとんどが女性、という団体は H21、H25 で大きく減っていたが、今回の調査では約 44% まで増加している。
- ・6～8割が男性、男女半々という団体は H17 の調査以降増加傾向にあったが、今回調査でどちらも 5～9%減少している。
- ・ほとんどが男性、という団体は徐々に減少する傾向にあり、会員の女性への偏りが大きくなっている。

(3) 中心年代の推移

(%)

項目	H13	H17	H21	H25	H29
10代	3.8	9.6	10.9	4.0	1.1
20代	2.9	1.2	4.0	4.0	4.5
30代	13.5	6.0	4.0	6.0	2.3
40代	24.0	16.9	7.9	7.0	14.8
50代	27.9	31.3	22.8	28.0	14.8
60代	22.1	31.3	38.6	33.0	40.9
70代	3.8	3.6	10.9	18.0	19.3
80代以上	1.9	0.0	1.0	0.0	2.3

(%)



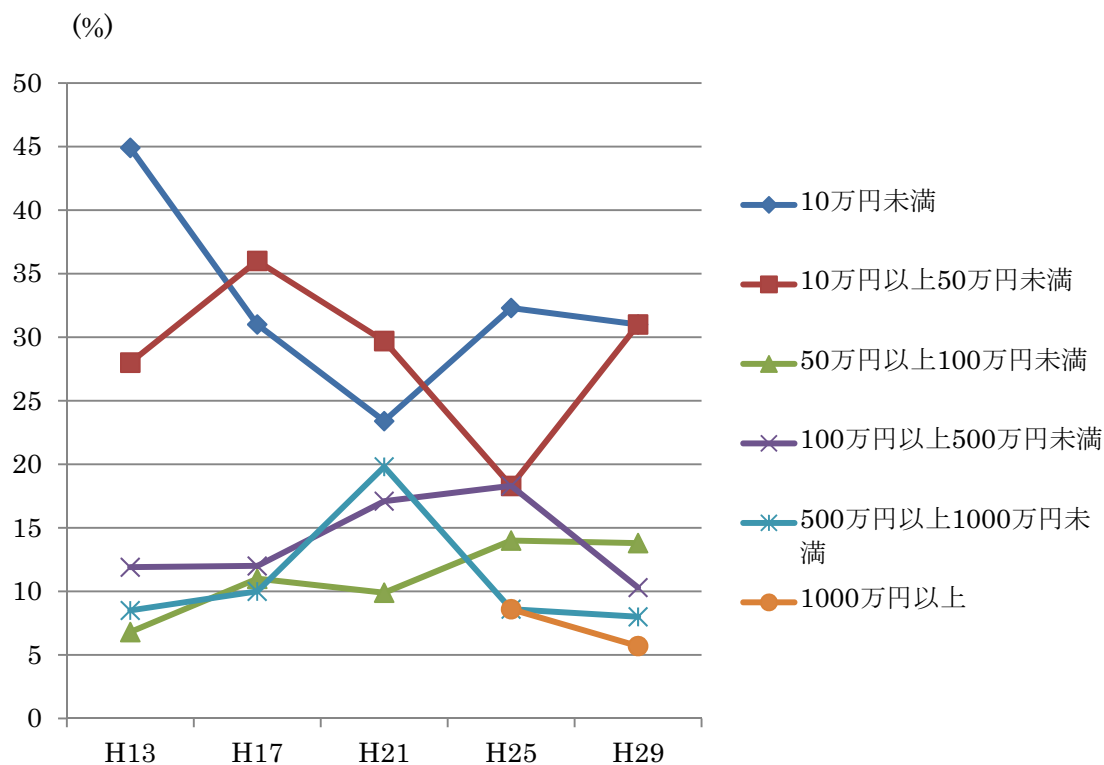
- ・ 60代が大幅に増加し、50代が大幅に減少していることから、前回主だった層が60代に移行したことが考えられる。
- ・ 前回調査で増加した70代はほぼ横ばいになっている。

(4) 予算規模

(%)

項目	H13	H17	H21	H25	H29
10万円未満	44.9	31.0	23.4	32.2	31.1
10万円以上50万円未満	28.0	36.0	29.7	18.3	31.1
50万円以上100万円未満	6.8	11.0	9.9	14.0	13.8
100万円以上500万円未満	11.9	12.0	17.1	18.3	10.3
500万円以上1000万円未満	8.5	10.0	19.8	8.6	8.0
1000万円以上				8.6	5.7

※H13～21は、上限は500万円以上までの選択肢のみ



- ・ 100～500万円の団体は、前回調査に比べ8%減少した。
- ・ 10～50万円の団体は前回調査で大幅に減少していたが、今回調査で約31%まで増加した。
- ・ 10万円未満の団体は前回の調査では増加していたが、今回調査では微減となっている。
- ・ 1000万円以上の団体は今回調査では前回調査に比べ約3%減少している。

資料2 調査票

H29年度市民活動団体アンケート調査票(回答用紙)

はじめに、あなたの団体(グループ)の概要についてお伺いします。

下の「団体(グループ)自己紹介表」にあなたの団体(グループ)の概要をご記入ください。

この自己紹介表は、市民や他の各種団体等から問い合わせがあった場合、また、団体間の協働・交流などに活用したいと考えています。そのため公開することも想定していますが、もし公開に不都合な項目がありましたら、各項目の左側の非公開欄に○印を付けてください。

■団体(グループ)自己紹介表

※「コラボのたね」登録団体は、登録情報に変更が無ければ団体の名称のみで構いません

(↓非公開欄 公開が不都合な項目に○印を付けてください)

	団体の名称	ふりがな		
	代表者の 役職・氏名	役 職 ふりがな 氏 名	連絡担当者 の氏名	ふりがな
	団体の住所・ 連絡先	〒 (様方) 電話: - - FAX: - -		
	e-mail			
	ホームページ			
	団体設立年月	年 月	会則(規約、定款)の有無	有・無
	設立趣旨 (目的)			
	活動分野	(下の活動分野表から該当する番号を全て選び記入してください)		(左記のうち特に力を入れている分野1つを記入してください)
	活動内容	(具体的に記入してください)		
	活動対象地域			
	会員数:	人(男女の割合:男 割、女 割)		
	会員数の推移:	増えている 変わらない 減っている		
	会報の有無:	発行している(年 回発行)・発行していない		

【活動分野表】

- 1 保健、医療 2 高齢者福祉 3 子育て支援 4 障がい者福祉 5 その他社会福祉
 6 社会教育・生涯学習 7 まちづくり 8 学術 9 文化 10 芸術 11 スポーツ 12 環境保全
 13 災害救援、防災 14 防犯、交通安全 15 人権の擁護 16 平和の推進
 17 国際協力・国際交流 18 男女共同参画社会の形成の促進 19 子ども・青少年の健全育成
 20 情報化社会の発展 21 科学技術の振興 22 経済活動の活性化
 23 職業能力の開発・雇用機会の拡充支援 24 消費者保護
 25 市民活動の支援・促進 26 観光 27 その他(具体的に)

1-1 会員の年齢構成についておたずねします。

(1). 会員の年齢の幅は何歳から何歳ですか。

()歳から()歳まで

(2). 会員のうちもっとも年代の多いのは次のうちどれですか。

- ① 10代 ② 20代 ③ 30代 ④ 40代
⑤ 50代 ⑥ 60代 ⑦ 70代 ⑧ 80代以上

1-2 会員の方は主にどのようなご職業の方が多くでしょうか。該当する番号の3つ以内に○印を付けてください。

- ① 会社員 ② 公務員・団体職員 ③ 自営業・経営者(農業・商業・工業等)
④ 専門的職業(医師・教員等) ⑤ パート・アルバイト
⑥ 家事従事者(主婦等) ⑦ 定年退職者
⑧ 学生 ⑨ その他()

2. あなたの団体(グループ)の組織・運営についておたずねします。

2-1 年間の活動資金はどの程度ですか。(平成28年度または平成27年度の決算額でお答えください)

- ① 10万円未満 ② 10万円以上50万円未満
③ 50万円以上100万円未満 ④ 100万円以上500万円未満
⑤ 500万円以上1000万円未満 ⑥ 1000万円以上

2-2 収入としている財源の割合についてお聞きします(整数でお答え下さい)。

- ① 会費および入会金 ()%
② 行政や民間からの補助金・助成金 ()%
③ 行政や民間からの業務委託 ()%
④ 自主的・独自の事業による収入 ()%
⑤ その他 [寄付金など..] ()%
合計 100 %

2-3 常勤のスタッフは配置していますか。

- ① 配置している(2-4へ) ② 配置していない(2-5へ)

2-4 常勤スタッフのうち、有給のスタッフの人数と、人件費はどれぐらいですか。

- ()万円～()万円 ()名
()万円～()万円 ()名
()万円～()万円 ()名
()万円～()万円 ()名
()万円～()万円 ()名
()万円～()万円 ()名

2-5 現在の活動状況は以下のどれですか。

- ① 活発 ② やや活発 ③ 停滞 ④ 休止状態 ⑤ 解散予定

3. あなたの団体（グループ）の活動内容についておたずねします。

3-1 現在、活動するうえで抱えている悩みとしてどのようなことがありますか。

(1)～(4)の各項目について、一番目の悩みに◎、二番目の悩みに○印(いずれも一つ)を付けてください。

(1)人に関する悩みがある

- ① ない
- ② ある→a. 新しい会員が増えない。
b. 会員の減少で人手が足りない。
c. 活動の中心者となる後継者が育っていない。
d. 会員の高齢化や世代・男女の偏りがある。
e. 会員の労力や事務的負担が大きい。
f. 活動に参加できる会員が少なく、活動が拡大していかない。
g. その他(具体的に)

(2)情報に関する悩みがある

- ① ない
- ② ある→a. 活動に参加したい人の情報が得にくい。
b. 他の団体情報が得にくい。
c. 補助金・助成金等の情報が得にくい。
d. 活動をPRする手段が少ない。
e. 他の団体との交流や情報交換の機会がない。
f. その他(具体的に)

(3)お金に関する悩みがある

- ① ない
- ② ある→a. 活動資金が不足している。
b. 活動に必要な機材や道具などが不足している。
c. 自主財源の確保が難しい。
d. 企業からの協賛金が集まらない。
e. 補助金や受託金の確保が難しい。
f. その他(具体的に)

(4)場所に関する悩みがある

- ① ない
- ② ある→a. 会合や活動場所の確保が難しい。
 - b. 事務所が確保できない。
 - c. 活動用具の保管場所がない。
 - d. 事務所が狭い。
 - e. 事務所の賃料が高い。
 - f. その他(具体的に)

(5) その他悩みがある

- ① ない
- ② ある→a. 活動発表の場所や機会がない。
 - b. 活動に必要な専門知識などを習得する機会がない。
 - c. 活動や運営方法等について外部に適切な相談機関がない。
 - d. 活動へのニーズが減少している。
 - e. 活動に対する社会的評価が低い。
 - f. イベントや事業での効果的な周知が難しい。
 - g. その他(具体的に)

3-2 あなたの団体(グループ)の活動を、更に発展させる方法についてお聞きします。

必要と思うものに○印を付けてください(複数可)。

- ① 事務所や活動場所(拠点)を確保する。
- ② 活動に必要な機材や資金の確保、あるいは協力を得る。
- ③ 行政に関する情報を得る。
- ④ 今後行う催し・行事などの情報を発信する。
- ⑤ 活動に参加したい人の情報を得る。
- ⑥ 補助金・助成金等の情報を得る。
- ⑦ 団体相互の情報交換・交流を図る。
- ⑧ 専門的な助言・相談できる人や関係機関とのつながりをもつ。
- ⑨ 研修などで技術や知識を研鑽する。
- ⑩ 法人格を取得するなど、活動に対する社会的な認知・信用を得る。
- ⑪ 会員や活動協力者等の人員を確保する。
- ⑫ その他(具体的に)

3-3 あなたの団体(グループ)の情報発信の方法と頻度についてお聞きします(複数可)。

- ① 会報・パンフレットの発行:年()回程度発行
- ② ホームページ・ブログを活用:年()回程度更新
- ③ SNSを活用:年()回程度更新
- ④ 新聞、地域情報誌等のメディアの活用:年()回程度掲載
- ⑤ イベント等での発信:年()回程度参加

行政、市民活動団体、自治会、 学校などの教育機関、企業、 その他()	
---	--

4-2 今後、行政または他の団体等と協働・連携して取り組んでみたい活動がありますか。
 ある場合、その相手や内容をお教えてください。(※活動の事例 10 ページに紹介しています
 ので参考にしてください。)

- ① ある ② ない ③ 要請があれば協働・連携を検討する



相手先と取り組みたい活動内容

5. 市民活動の促進についておたずねします。

5-1 市民協働のまちづくりを進めるにあたっては市民活動そのものを推進させる(充実させる)必要があると思いますが、その際、行政に求めることはありますか。該当するものに○印を付けてください(複数可)。

- ① 学習・会議場所の提供、施設利用時間の延長
- ② 市民が活動を体験できる場や機会の提供
- ③ 活動を推進・促進させる拠点施設の設置
- ④ 行政に関する情報の公開、提供
- ⑤ 市民活動への理解と参加を促すための広報・普及活動
- ⑥ 市民や他の団体等が活動に関して情報が得られる仕組みの整備
- ⑦ 他団体との交流・ネットワークづくり
- ⑧ 能力向上のための研修や講座の開催
- ⑨ 活動に関する相談、助言
- ⑩ 活動に必要な備品や機材の提供
- ⑪ 活動資金の補助や助成
- ⑫ 事業等の委託
- ⑬ 活動への評価・表彰制度の創設
- ⑭ 行政の協力は不要
- ⑮ その他()

市民活動団体が市民のもとに出向き、それぞれの団体の特性を活かした講座や講演を実施する「市民活動団体版出前講座」を行っています。これに関して、以下についてお聞きします。

(なお、市民活動団体版出前講座メニュー表は、江別市民活動センター・あい、公共施設、市役所市民生活課窓口のほか、市のホームページで入手できます。)

5-2 「市民活動団体版出前講座」を知っていますか。

- ① 知っている ② 知らない

5-3 「市民活動団体版出前講座」への登録を希望しますか。

- ① 登録したい ② 既に登録している
③ 登録したくない(5-4 へ) ④ わからない

5-4 登録したくない理由をお聞かせください(複数可)。

- ① 出前講座の対象となる事業を行っていないから
② 出前講座を行うための人員がないから
③ 出前講座を行う時間がないから
④ 登録の利点を感じないから
⑤ 既に団体独自で出前講座(出前講座同様のものも含む)を行っているから
⑥ 登録手続きが難しそうだから
⑦ 出前講座実施時の手続きが難しそうだから
⑧ その他()

6. 江別市の「協働のまちづくり活動支援事業」についておたずねします。

6-1 江別市では、市民活動団体が市民や地域のニーズに対応した新たな取り組みや、これまでの活動を拡大した取り組みで、地域の課題解決や活性化が期待される公益的な事業を行う場合に、補助金を交付する「協働のまちづくり活動支援事業」を行っています。この活動支援事業についてお聞きします。

(1) 今後、この事業による支援を受けたいとお考えですか。※既に受けたことのある団体の方は、再び受けたいかどうかについてお聞かせ下さい。

- ① 受けたい ② 条件によっては受けたい((2)へ) ③ 受けたくない
④ わからない

(2) どのような条件があれば、受けたいですか。

- ① 実施時期(6-2へ) ② 金額 ()円
③ 補助率 ()/() ④ その他()

6-2 現在は、補助を受ける年度の6月に事業の選考を行い、補助事業として決定しています。もし、前年度中に選考があり、その決定を受けて、補助事業を実施できるならば、支援を希望

されますか。

- ① 希望する ② 希望しない ③ その他()

7. 市民活動・協働を促進する施設についておたずねします。

7-1 市民活動の促進を目的に、関係団体間の情報交換や学びを行う「場」として、平成 18 年 9 月に「NPO 法人えべつ協働ねっとわーく」により『江別市民活動センター・あい』が開設されましたが、この「江別市民活動センター・あい」についてお聞きします。

(1) 利活用についてお伺いします。

- ①利用したことがある ②今後、利用してみたい ③利用は考えていない

(2) 上記①で「利用したことがある」と答えた方にお聞きします。

どのようなことで利用されましたか(該当するもの全てに○印を付けて下さい)。

- ① 会議室の利用 ② 交流会の参加 ③ 講演会・講座・研修会の参加
④ 活動等の相談 ⑤ 印刷機・コピー機等の使用
⑥ パソコンやインターネットの活用 ⑦ 収納スペースの活用
⑧ その他

(3) 利用頻度についてお聞きします。

- ① 週に 3～4 回程度 ② 週に 1～2 回程度 ③ 月に 3～4 回程度
④ 月に 1～2 回程度 ⑤ 年に 3～4 回程度 ⑥ 年に 1～2 回程度

(4) 配慮してほしい点など要望があればお書き下さい(開館時間、料金、親切さ等)。

--

(5) 上記①で「利用は考えていない」と答えた方にお聞きします。

今後のセンター運営をよりよいものとするため、理由をお聞かせください。

--

8. 認定 NPO 法人制度についておたずねします。

NPO法人のうち、一定の要件を満たす法人は、所轄庁(都道府県又は政令指定都市)から認定され認定NPO法人となることで、税制上の優遇措置を受けることができます。合わせて、寄附した方にも税制上の優遇措置(寄附金控除対象となる)があります。

この認定NPO法人制度は、NPO法人への寄附を促すことにより、NPO法人の活動を支援することを目的としています。

8-1 認定 NPO 法人制度を知っていましたか。

- ① 知っていた ② 聞いたことはあったがよく知らない ③ 知らなかった

8-2 認定法人への寄附に伴う税制優遇措置の拡大等がなされましたが、これによる寄附に対する考え方についてお聞きします。

(1) 認定 NPO 法人への寄附に興味がありますか。

- ① 興味がある ② 興味はない((2)へ) ③ わからない

(2) 興味がない理由

- ① 認定NPO法人のことを良く知らないため
② 寄附は認定 NPO 法人かどうかではなく、活動内容によって決めるため
③ 寄附金の還付率が低いため
④ その他()

9. その他

9-1 新しい市民活動団体(グループ)の情報を集めています。最近一年以内に発足した、あるいは、これから発足しようとする団体を、是非ご紹介ください。

団体名：
代表または連絡者氏名：
連絡先： Tel () 、 E-mail
事業内容：

9-2 その他、お気づきの点、並びに、市民活動や協働の促進に関する要望等(研修会等の開催希望テーマも含む)がありましたらお書き下さい。

※これで質問を終わらせていただきます。ご協力ありがとうございました。

未回答の問いが残りましたが、同封の返信用封筒にて 10月6日(金)までにご返送ください。

別紙

※協働の取り組みを考えるとときの参考として、全国の活動事例を紹介します。

【市民活動の事例】

保健・医療・福祉の分野	高齢者・障がい者の介護、難病者の支援、高齢者への給食サービス、アルコール・薬物依存者へのケア、共同作業所、禁煙権の運動、高齢者・障がい者の移動サービス、自然食の生産・販売、救急医療の普及、聴覚障がい者への点字・手話・声のボランティア、自立生活・作業所の支援、障がい児保育、ファミリーサービス、病気の予防グループ
社会教育の分野	消費者保護・教育、フリースクール、生涯学習の支援、ペットのケア、高齢者海外学習の支援、高齢者大学の運営
まちづくりの分野	歴史的建造物の保存、地域おこし、情報誌の発行、まちの清掃活動、フラワーガーデン運動、都市と農村の交流、自治体のオンブズパーソン、コミュニティづくり、地域産業の活性化、地域振興
文化・芸術・スポーツの分野	民間博物館、スポーツイベントの支援、伝統文化の継承、美術館解説ボランティア、市民オーケストラ、スポーツ教室、スポーツ指導、演劇鑑賞会、芸術家の支援、映画の上映会
自然・環境保全の分野	野鳥の保護、樹木の観察、森林保全、河川の浄化、再生紙利用、ナショナルトラスト、リサイクル運動、住環境の保全
災害救助、地域安全の分野	自然災害の救助、人的災害の救援、災害被害者への支援、災害の予防活動、交通安全活動、犯罪の防止活動、犯罪者の社会復帰支援
人権擁護、平和推進、国際協力の分野	差別に対する活動、子どもの虐待防止、家庭内暴力からの保護、ホームレスの生活支援、法律相談、国際交流活動、難民支援、在日外国人の生活支援、留学生支援、日系外国人の帰国者支援
男女共同参画社会形成、子どもの健全育成の分野	女性の自立支援、女性の地位向上、女性の働く環境をつくる運動、セクシャルハラスメントを防止する活動、女性の雇用均等を求める活動、家庭内暴力防止センター、シェルターハウス、遊びの伝承、非行防止、本の読み聞かせ会、ボーイスカウト、ガールスカウト、不登校児の親の会、いじめ問題 110 番、命の電話、託児所、地域の子ども会、地域の子育て支援、学童保育、グループ保育
市民活動支援の分野	市民活動サポートセンター、市民活動への助成、民間助成、ボランティアセンター、市民活動にインターネット利用を進める活動、市民団体の立法支援、善意銀行、市民バンク、企業・自治体への市民活動の紹介、市民活動の情報提供